

平成28年度

事業報告

社会福祉法人 長い坂の会

目 次

I はじめに

- 1 法人総括 1
- 2 高齢者福祉事業総括 5
- 3 児童福祉事業総括 5
- 4 公益事業総括 5

II 高齢者福祉事業

[1] やすらぎの家 関連事業

- 1 特別養護老人ホームやすらぎの家 6
- 2 短期入所生活介護やすらぎの家 21
- 3 グループホームほのぼのの家 22

[2] うららか春陽荘 関連事業

- 1 特別養護老人ホームうららか春陽荘 ... 25
- 2 短期入所生活介護うららか春陽荘 32
(ショートステイ)
- 3 デイサービスセンターはるかぜ 33
- 4 デイサービスセンターそよかぜ 34
- 5 居宅介護支援事業所はるの 35
- 6 高齢者住宅等安心確保事業 36
(横浜ニュータウン)
- 7 うららかキッズガーデン 36
(事業所内小規模保育施設)
- 8 春陽荘各種委員会報告 37
- 9 研修参加状況 38
- 10 実習・研修受け入れ 49

[3] 在宅介護センターわかくさ 関連事業

- 1 デイサービスセンターくつろぎの家 52
- 2 デイサービスセンターわかくさの家 54
- 3 小規模多機能型居宅介護 わかくさ 55
- 4 高知市在宅介護支援センター あさくら... 58
- 5 高知市西部地域高齢者支援センター
あさくら出張所 60
- 6 くつろぎの家 訪問入浴サービス 62
- 7 高齢者住宅等安心確保事業 (若草町) 63
- 8 総務部門 63
- 9 実習受け入れ状況 63

III 児童福祉事業

[1] うららか保育園 関連事業

- 1 うららか保育園 65
- 2 放課後児童クラブ 71

IV 公益事業

- 1 平成福祉専門学校 73

V 法人各種委員会活動報告

- 1 人材確保対策委員会 76
- 2 総務経営委員会 76
- 3 危機管理委員会 77
- 4 教育・研修委員会 77
- 5 保健衛生委員会 78
- 6 給食委員会 79
- 7 在宅福祉推進委員会 79
- 8 高齢者生活改善委員会 80
- 9 広報委員会 81

I はじめに

1 法人総括

- (1) 平成28年度理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会、監事監査、
内部経理監査開催状況

①理事会

開催年月日	出席者数	決議事項
28.5.26 (第189回)	11名	第1号議案 平成27年度事業報告及び決算報告 ・監事 監査報告 ・高知市指導監査報告 第2号議案 平成28年度第1回補正予算 第3号議案 諸規程の一部改正 第4号議案 理事の変更の同意及び定款の一部改正
28.9.13 (第190回)	11名	第1号議案 うららか保育園運営規程の一部改正 第2号議案 やすらぎの家における給食業務の業者委託 第3号議案 平成28年度第2回収支補正予算
28.12.9 (第191回)	11名	第1号議案 平成28年度第3回収支補正予算 第2号議案 運営規程の制定及び諸規程の一部改正 ・介護予防・日常生活支援総合事業第1号通所事業運営規程の制定(くつろぎの家、はるかぜ) 第3号議案 定款の一部改正 第4号議案 評議員選任・解任委員会運営規則の制定 第5号議案 評議員選任・解任委員会の設置 第6号議案 評議員候補者推薦(案)
29.3.22 (第192回)	10名	第1号議案 定款の一部改正 第2号議案 諸規程制定及び一部改正 ・報酬規程の制定 第3号議案 平成28年度第4回収支補正予算 第4号議案 平成29年度事業計画 第5号議案 平成29年度当初予算 第6号議案 長い坂の会管理職等の人事

②評議員会

開催年月日	出席者数	決議事項
28.5.26	24名	第1号議案 平成27年度事業報告及び決算報告

(第 84 回)		<ul style="list-style-type: none"> ・監事 監査報告 ・高知市指導監査報告 第 2 号議案 平成 28 年度第 1 回補正予算 第 3 号議案 諸規程の一部改正 第 4 号議案 理事の変更の同意及び定款の一部改正
28.9.13 (第 85 回)	20 名	第 1 号議案 うららか保育園運営規程の一部改正 第 2 号議案 やすらぎの家における給食業務の業者委託 第 3 号議案 平成 28 年度第 2 回収支補正予算
28.12.9 (第 86 回)	22 名	第 1 号議案 平成 28 年度第 3 回収支補正予算 第 2 号議案 運営規程の制定及び諸規程の一部改正 <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防・日常生活支援総合事業第 1 号通所事業運営規程の制定(くつろぎの家、はるかぜ) 第 3 号議案 定款の一部改正
28.3.22 (第 87 回)	22 名	第 1 号議案 定款の一部改正 第 2 号議案 諸規程制定及び一部改正 <ul style="list-style-type: none"> ・報酬規程の制定 第 3 号議案 平成 28 年度第 4 回収支補正予算 第 4 号議案 平成 29 年度事業計画 第 5 号議案 平成 29 年度当初予算 第 6 号議案 理事の退任及び理事の交代

③評議員選任・解任委員会

開催年月日	出席者数	決議事項
29.3.7	6 名	第 1 号議案 委員長の選任 第 2 号議案 新評議員の選任

④監事監査

開催年月日	監査者	指導事項
28.5.18	川崎重幸 梅田昭彦	<ul style="list-style-type: none"> ・総勘定元帳、残高証明を基本に見せていただいた。会計職員が、よく迷うところでは、消耗品費、修繕費、雑費の仕分けで迷うことがあると思うが、10万円未満は、消耗品費での処理、30万円を超える場合は、科目を確認し処理をするようお願いをする。今回は特に間違いがなく処理をされていた。 ・事業内容については、特に問題なく整理され、事業が多く書類の整理も大変と思うが、わかりやすく処理されていた。

⑤内部経理監査

監査年月日	監査者	指導事項
H28.11.14 平成福祉専門学校	総務部長 福井 毅	法人全体の会計処理について、委員会において法人本部拠点を除く拠点調査を2か月1度の実施している関係もあり、概ね適正に処理されている。仕訳処理についても一定の統一は行えてはいるが、仕訳の正確性に欠ける拠点もあり、事務職員個々の資質向上と統一した理解を行う教育が必要である。
H28.11.14 在宅介護センターわか くさ拠点		高齢者福祉事業では、複数の事業で厳しい状況にある。やすらぎの家拠点については、比較的安定した経営ではあるが、予算に対し収入は下回っており、ショートステイも含めて、空床をいかに活用するかが課題と考える。限られた定員の空床状況をどのようにコントロールするかにより、今後の収入状況は大きく変化し、建物の老朽化も含め、将来的な展望と介護保険の動向を見据えた経営に取り組む必要があると思われる。うららか春陽荘拠点では、かなり難しい経営状況にあると思われる。主事業である介護老人福祉施設は、在宅サービス依存の経営状況にあり、今後の介護保険の動向によっては、より厳しい経営状態に陥る可能性があり、介護老人福祉施設単独での安定経営を目指した体制改善と強化、人員配置の見直し等が必要と思われる。わかくさ拠点については、在宅サービスのみの集合体のため、稼働率不安定により赤字経営が続いている。特に小規模多機能型居宅介護わかくさが前半期の登録数低迷により赤字幅が大きく厳しい状況であるが、登録制の利点を生かし、居宅介護支援事業所との協力、紹介体制の強化、要介護度と利用内容を含めた利用者調整等に積極的な取組が必要である。春陽荘拠点の通所介護・認知症対応型通所介護も含め、各居宅介護支援事業所からの紹介率上限までの向上と維持、同一敷地内に存在する居宅介護支援事業所の意図、地域包括ケアシステムの動向等に対する体制強化、総合性と専門性を目指したサービス力向上に向け柔軟かつ戦略的な対応が必要と思われる。
H28.11.15 うららか春陽荘拠点		保育事業については、安定経営であるものの、保育士確保が厳しい状況であるため、事業の安定のためにも、積極的な保育士確保に向けた対策と行動が急務ではないか。また、保
H28.11.16 やすらぎの家拠点		
H28.11.16 うららか保育園拠点		
H28.11.17 本部会計拠点		

	<p>育園独自の処理等があり正確性と透明性等を意識し、他拠点も含めた管理体制と処理・整理法を確立しなくてはならない。</p> <p>平成福祉専門学校は、新規事業の実務者研修が好調であったため経営改善に努めることができたが、主の学生確保に苦慮している。学生確保が学校経営の主軸であるため、学生募集に対する費用対効果の検証を行い、学生募集費の効果的かつ効率的な投入による強化が必要と思われる。</p> <p>赤字拠点多く、将来的な運営に不安を抱く状況である。また、大半を占める高齢者事業については、介護保険制度の改正も控えた状況であり、地域ケアシステムの推進による、要介護1・2に対する大幅な見直等が行われた場合、在宅サービスを持つ、春陽荘拠点とわかき拠点が更に厳しい状況へ陥ることとなる。今後の安定経営のためにも、入所施設を中心とした経営改善、係長職以上の教育力とマネジメント力が必須ではないだろうか。</p>
--	--

(2) 総括

平成28年度は、27年度に続き厳しい運営状況であった。昨年度の介護報酬改正により、人件費を除く介護報酬は実質大幅な減額になったことと、特養の稼働率が平均92%に留まったことなどが大きな要因となった。その反面、原油価格の下落によるプロパンガスやガソリン代の値下げは運営の改善に影響を与えた。

在宅サービスも含め、ご利用者に満足して頂ける取り組みを行っているが、今後とも、地域の方々と連携し福祉の拠点、災害時の拠点として信頼される施設運営に重点を置く必要性を感じる年でもあった。

人材確保と離職の防止については、昨年から常勤契約職員のほとんどを3等級職員として正規採用し、職員の待遇改善と人材確保に努めたこともあり、その結果介護職員等の離職防止の役割が果たせたが、一部の職種については年間を通して人材不足が生じていた。特に調理員の確保が難しく、やすらぎの家では、8月から調理部門の業者委託を開始した。その結果、調理員の確保問題も解消し、ご利用者に対しても現段階では問題なく食事提供がスムーズに行われている。

施設整備等については、わかきでは、施設警備会社を導入し治安の確保を行い、うららか保育園では、国の補助をもらいLED照明に交換、グラウンドの土を入れ替え補充した。また、法人本部事務所を整備し29年度向けの準備を行った。

その他運営面では、平成福祉専門学校も学生確保が今までにない厳しい状況となった1年であった。また、各種委員会も3年目を迎え、来年度は、各委員会のあり方も検討する必要があると思われる。

2 高齢者福祉事業総括

平成 28 年度の各部門の運営状況については経営的な部分では厳しい状況だった。やすらぎの家、うららか春陽荘では、ベッド稼働率 95% の目標が達成できず、空床状態が続いた。その中でも各施設では稼働率向上を意識した取り組み、改善を目指す年であった。やすらぎの家では入院につながらないように各部門での健康管理体制の強化を行い、うららか春陽荘ではノーリフトケアに取り組むなど改善に模索した年だった。

在宅サービスでは、拠点ごとの事業展開が非常に厳しく、部門ごとの成果は出ているが、全体のつながりを見てみると効率の良いサービスが提供できていない部分があった。特に厳しく感じたのは認知症デイサービスの稼働が互いに厳しかった。一般デイサービスと認知症デイサービスの理解と提供では認知症デイサービスが弱かった部分がある。

処遇改善面では職員間の取り組みは各委員会等の計画が実践できたことと法人間の職員交流ができたことは良かったと思う。しかし今年度についても行政報告する重大事故等の件数も減少傾向はなく今後も事故防止についての取り組みは課題として残る。

3 児童福祉事業総括

平成 28 年度定員 130 名、4 月は新入園児名を含む 141 名の園児を受け入れた。年度途中に入園等があり、3 月末は 151 名在籍、春には 32 名の卒園児を送り出した。

また、職員は育休 2 名・産休 1 名がおり、主任保育士を子育て支援担当としたため主任加算分が減額となった。特別事業の一時保育等にもパート職員を配置して受入体制を整えた。保育士不足が保育園運営面で大変ではあったが、派遣会社より雇用を行うなど待機児童を受け入れる事が出来た。

地域との交流も定着し、春野町の文化祭、南ヶ丘の夏祭り、文化祭、敬老会など子どもたちの発表の場も広がり地域に定着して来た。

子育て支援センターの活動も南ヶ丘全家庭に広告を自治会の協力を得て配布を行い、保育園の活動を知らせて行き来園につながってきた。

4 公益事業総括

平成 28 年度においても、学生募集は厳しい状況であった。入学した学生を卒業させることを考え取り組みを行った。介護福祉事業に従事する介護福祉士を養成する施設として、広く専門的な知識と技術を習得させ、更に創造力を養い、社会福祉の推進に貢献する有能な人材を育成するために下記のことに取り組んだ。学生への指導も学生自治会を主体に、学生課がバックアップして生活指導を実施した。これまでの、クラス固定教

室を廃止し、授業毎に、教室移動することで、教室内の荷物の置きっぱなしや私物の紛失防止に取り組んだ。

学生の福祉施設のボランティア活動への積極的参加を呼びかけ、見聞を広げ自己研鑽に励むよう指導した。事業所や団体のボランティア学生に対する評価は、おおむね好評であった。

一方学生募集では、高校に合計 290 回訪問して、体験入学への参加周知や奨学金等の周知、説明会、体験入学等で出会った高校生の報告や進学に向けての不安や疑問を解消した。福祉教育授業として、県内の高校や小学校 12 校で 297 人に対し実施した。高知県専修学校各種学校連合会、説明会業者 8 社で合計 49 回の説明会に参加して、延べ 256 人に介護福祉分野の魅力、学校の特徴、雰囲気等を説明し体験入学への参加に結びつけた。体験入学の参加者は延べ 96 人であった。

Ⅱ 高齢者福祉事業

[1] やすらぎの家 関連事業

総括

平成 28 年度の基本方針・重点目標を念頭に置きながら、反省や課題はあるもののご利用者及びご家族との関わりを大切にし、誠意を持ってサービスの向上に努めた。また、各委員会や職員研修においても目的を持って取組み、資質向上に努めた。

平成 28 年度の高知市介護ロボット導入補助金事業において、介護職員の負担軽減を図るため、見守り支援ベッドシステム一式 2 台を補助金にて購入することができた。

感染症対策については、何度か発症したインフルエンザも早期対応により最少人数に止めることができた。

施設整備については、建物や設備の老朽化が進む中、電気受電装置高圧ケーブルの取換工事を実施し問題対処を図った。また、高知スタンダード石油より寄付として、厨房の廃棄処分物を肥料に変える、生ごみ処理機「バイオ君」をいただき、活用できた。

継続的に取り組んでいる防災対策については、ご家族や別法人の役職員の方々の参加をいただき、災害対策訓練「災害ワーキング」を開催し、“もしものために自分たちが今できること”をテーマに、避難ボードを使ってのデモンストレーションや簡易救急処置法、衛星電話などの取り扱い訓練、炊き出しの実演など、職員の防災意識の向上に努めた。また、防災対策を継続的に進めていくなかで、今年度は、高知県南海トラフ地震対策優良取組事業所認定制度において、5 つ星の認定をいただいた。

ご利用者の食事については、平成 28 年 8 月より調理業務のみの一部委託を開始し、契約書・仕様書・大量調理施設衛生マニュアルなどにより、施設の管理栄養士と連携し業務推進に努めた。

33 年を迎え、これまでの実績を大切にしながら、あらたなニーズに対応する柔軟な姿

勢・発想への取組みと安心と信頼を支える質の高いサービスの提供など、今後の課題に向けて職員一丸となり、より良い施設運営に努める。

(1) 介護部門

平成 28 年度施設の事業計画・介護部門の事業計画を念頭に、介護職員として、ご利用者中心の生活の場を意識し、根拠のあるケアを実践するために各グループ目標を掲げ職員全員でご利用者・ご家族の希望、要望に添えるような対応に努めた。

① 各委員会の取組みについて

各委員会の取組みや定例会を通じて、他部署を交えての勉強会や研修を実施した。また各グループの委員が中心となり年間を通じてご利用者の状態に合わせ、統一したケアが提供できるように努めた。

② 多職種連携について

歯科医師による口腔ケア指導を継続的に実施していることで、職員の口腔ケアへの関心も高まり、ご利用者が経口摂取を持続できるように努めた。また、理学療法士の指導により、ご利用者の身体機能の維持や低下防止に努め、褥瘡予防の観点から除圧やポジショニングにも取り組んだ。

③ 職員研修について

年度初めに職員から提出される自分シートを活用し、目的を持った研修（外部、内部）に参加することで職員のスキルアップとご利用者により良いケアが提供できるように努めた。その他にも新人職員への {初期} {中期} {後期} の職員研修を継続して行い、専門職としての資質向上と定期的な振り返りを実施することで介護職員の働く環境整備を行った。

また、震災に備えた災害ワーキングや机上訓練を定期的の実施し、災害時のマニュアルや環境整備に努め現状課題について再認識を行い災害に備えて取り組んだ。

④ 安全・衛生委員会について

毎月テーマを決めて検討を行った内容を職員に周知し職員のモラル向上と健康管理に努めた。また、平成 28 年度は職員のメンタルヘルスの取組みとしてメンタルヘルスチェックも実施された。

⑤ ご家族、ボランティアの方々との交流について

家族会を通じて年間行事に参加してくださるご家族が年々増えてきており、ご家族同志や職員との積極的な交流を図り信頼関係作りに努めた。余暇活動として、ご利用者の楽しみの一つでもある「喫茶つどい」には継続してボランティアの方々の参加をいただいた。

さくらグループ

「ご利用者の生活に楽しみや笑顔が増えるケア」を目標に職員全員で努めた。

1. グループ活動としてレクリエーションや外出の機会を設け、ご利用者の生活に楽しみを増やすことができた。また、年間の活動時の写真を見ながらご利用者と関わる時間を作りご利用者、職員共に笑顔で過ごすことが増えた。
2. 平成 28 年度入院者が多かったことが反省として挙げられる。今後ご利用者の状態の変化に応じた早めの対応に努めご利用者の健康管理に努めたい。
3. ご利用者の身体機能に合わせた移乗介助（スライディングボード）の活用も積極的に行い定着してきた。今後ご利用者の状態や気持ちを大切にするケアに努める。

こもれびグループ

「ご利用者が満足できるケア」を目標にグループでのケアを行った。

1. ご利用者に満足してもらえるケアを提供するために、職員全員がご利用者の話に耳を傾け考え、ご利用者に合った環境や生活スタイル、介助方法の変更などに務め一つひとつ取り組むことでご利用者の笑顔を見る事ができた。
2. ホールの環境を整える事でご利用者同士の交流が増え、ご利用者が自由に動ける空間が広がり、結果車椅子で移動されるご利用者の皮下出血の軽減にも繋がった。
3. 今年度発生した重大事故について、ご利用者の安全を守るためにルール周知徹底に努めた。

そよかぜグループ

「ご利用者が安らかに過ごせるケア」を目標に掲げた。

1. 家族会や担当者会に参加されたご家族の意見を大切に、要望に沿えるようできる事から実践していった。
2. ご利用者が希望している事に対しては、職員がゆっくりと話を聞き満足していただけるような対応、またグループ会では職員間でどうすれば良いケアが出来るかの話し合いを積極的に行った。
3. 体調管理や事故防止に対しては、細かい部分での申し送りや気付きが不十分であった。今後は職員個々の気付きを大切に職員間の連携、情報の共有を徹底していき、早期の対応に努め、より良いケアをご利用者に提供していきたい。

つばさグループ

ご利用者、職員共に「笑顔」になる目標を掲げていた。

1. ご利用者対応について、ご家族からの意見を真摯に受け止めグループ会で職員全員で話し合い、気持ちを引き締め今後ご利用者が安心して過ごす言葉がけに努めていく。
2. 行事へ参加出来るご家族は少なかったが来年度も参加を呼びかけ、ご利用者の施設での生活がより良くなるためにご家族との意見交換も積極的に行い信頼関係を築いていく。

3. グループで壁画担当を決め、作成し完成するとご利用者との会話が広がり職員、ご利用者とも笑顔が増えた。
4. 毎月居室清掃の日を予定に組み入れ職員で徹底してでき出来た。来年度も継続していく。

たいようグループ

ご利用者の「幸福」を目標とし職員全員で取り組んだ。

1. 健康管理についてはご利用者の基礎疾患からなる入院が多くあり、結果として入院日数は去年度と比較し減少していないが、肺炎や尿路感染などによる入院数は去年度に比べ減少しており、職員全体が意識して取り組めた成果が出たものと思われる。また、3月末にインフルエンザにご利用者1名罹患したが、感染マニュアルに添った対応を速やかに行えたことで、他のご利用者、職員への感染を防ぐ事ができた。
2. ホールの清掃は毎日行えていたが、居室清掃が不十分でご家族からの意見があった。ご家族からの意見を真摯に受け止め、清掃を細目に行いご利用者が生活されるスペースの清潔を保ち、健康管理に努めていきたい。
3. 毎月のグループの活動は予定通りには行えず、満足のいく結果にはならなかったがご家族の面会時にはご利用者の状態の報告をし、希望されたことは職員全体に周知し行う事ができた。
4. 原因不明の事故(主に皮下出血)が平成28年度も多く挙がっていた。原因を明確にするために介助中の圧迫や、摩擦について想定される状況を職員全員が把握し、ご利用者に対し統一したケアに努める。

(2) 介護職としての専門性を高める

身体拘束廃止・虐待防止委員会開催時確認

重点目標の実施状況…虐待件数ゼロ、不適切ケアゼロ。

ア 平成29年度不適切なケアが2件

総会で内容の報告を行う。今後「ご利用者の思いを理解する」「ご利用者や、職員に対しての不適切な対応の改善」について介護主任より指導を行う。不適切なケアゼロを目指しているが職員の学びが深まったことで不適切をそのままにせず、声に出し注意し合える環境を継続して行く。

イ 年に4回身体拘束廃止・虐待防止定例委員会を実施

各グループでの対応困難事例の取り組みに向けて経過報告と他グループ間での書面にて確認を行った。「良いケアの取り組み書」の書面を作成し、ケアの中で困ったことを出し合い、一人で悩まずグループ全体の事としてとらえ今後について話し合いをすることでより良いケアに努めた。「〇×シート平成29年度に向けての作成」に対して年度末に現在の各グループの振り返りを行い、現場での状況変化はあった。

ウ 身体拘束廃止・虐待防止検討会の実施

身体拘束廃止委員会により、緊急やむを得ない場合の3原則を満たす事例としてミトン装着を実施し、ご本人への身体拘束の弊害について記録をとる。ミトン装着時間内もミトンを外されチューブを抜いてしまう事が続き、命の危険があると判断し再び委員会を開催する。その結果施設では対応困難と判断し、ご家族了解のもと退所となり医療機関への転院となる。

エ 虐待防止の内部研修

各グループで対応困難事例を挙げアセスメント、課題分析とプランニング、取り組みの経過とモニタリングを独自のシートを使い、数ヵ月間の取り組みを実施し研修報告をした。この取り組みを通じて、グループの職員の情報共有と統一した取り組みの必要性を学べた。

事故防止委員会 事業報告

事業計画「介護ミスによる重大事故をなくす」

目標を念頭に平成28年度は予測される事故防止に繋げるように、ご利用者の状態の変化、職員の行動マニュアル、環境面についてヒヤリハットの提出、軽微な事故発生後の報告、連絡、相談の徹底に努め重大事故防止に繋がるように取り組みを行った。

平成28年度重大事故は24件発生している。発生した重大事故の内、誤薬10件、骨折3件、外傷1件に関しては介護ミスと判断しているため目標は達成できなかった。

1. 誤薬事故については、平成27年度（4件）に比べ増えていたため、9月から施設全体で検討を重ね服薬についての基本動作、書類整備など服薬マニュアルの見直しを行った。また、服薬マニュアルについて職員への伝達研修を実施し、1月中旬から新服薬マニュアルにより誤薬防止に取り組んだ。
2. 骨折については、職員の努力の結果、転倒による骨折事故は減少しているが、自発的な行動が少ないご利用者に原因不明の骨折事故が3件発生している。このことを重要視し、ご利用者の身体的状況に合わせた介護方法について早急な見直しが必要と判断をしている。平成29年度には理学療法士の意見、指導を受け介護技術の見直しを行い職員への伝達研修、周知、徹底について取り組んでいく。
3. その他の事故については、ご利用者の負担を軽減した介助方法が必要と思われる軽微な事故が発生している。ご利用者の重度化がすすむなか、マンパワーに頼った介護方法では対応が困難なご利用者が増えており介護技術の伝達について不足していたことが考えられる。
4. 感染症（インフルエンザ）については、平成28年3月と平成29年1月の2回発生しているが、感染予防マニュアルの徹底により蔓延、ご利用者の重症化は防げた。今後については、通常の流行時期より遅れて発症することが十分に考えられるため医務室との連携を強化していき早めの対応に努めていく。

5. 平成 27 年度から職員の「記録」について課題が残っている。今年度発生した重大事故についても、職員の記録が少なかったことから何時、何処で発生したのか明確に打ち出すことができなかった。報告、連絡、相談は向上しているが、日々のご利用者の記録を増やすことで事故防止に繋げていくためにリスク管理フローチャートを新しく作成し、職員への具体的な記録の方法について周知を行い平成 29 年度の事故防止に繋げる。

(3) ケアマネ部門

1 施設サービス計画書の作成に関して

1. サービス計画を作成するためのアセスメントに関して、当施設独自のアセスメント表 1、身体機能評価シート、アセスメント表 3 を他職種共同で作成し、定期的を実施してきた。

アセスメント表 1 では、既往歴、現病などの健康状態、服用している薬剤、期間中の発熱、期間中の受診・入院の有無、褥瘡のリスク、皮膚の問題などを看護職員、ケアワーカーが記載したケース記録をもとに、担当ケアマネが取りまとめて記載している。また、ご利用者本人の意思もケアワーカーあるいは担当ケアマネが聞き取り記載している。身体機能評価シートでは、起居、立位、歩行、着脱、整容の各動作の自立度だけでなく、低栄養、脱水、便秘等のリスクの評価に資するために、直近 2 ヶ月間の食事摂取量および水分摂取量、排泄の 1 日の回数とトイレ等で排泄があった回数、排便間隔、等々を記載する項目を盛り込んで担当ケアワーカーが評価をしている。アセスメント表 3 では認知症症状について担当ケアワーカーが評価している。身体機能評価シートとアセスメント表 3 は最終的に担当ケアマネージャーがその内容を吟味したうえで、サービス担当者会に提出する。

2. モニタリングについては、的確に実施するように努めた。モニタリング原案の項目を担当ケアマネが作成して、担当ケアワーカーに記載を依頼する。担当ケアワーカーはケアプラン項目のチェック表に集計に踏まえて原案の素案を記載し、担当者会議の一週間前までに担当ケアマネに渡す。担当ケアマネは、その内容を吟味して、訂正、補足をしてサービス担当者会議にモニタリング原案として提出する。またモニタリング原案の中に、在宅復帰についての項目を設け、キーパーソンを含むご家族の状況に分析に踏まえて、在宅復帰の可能性について担当ケアマネの意見を原案として提示する。

3. ケアプラン原案についても、今年度は確実に作成するように努めた。ICF の生活機能理論に踏まえて、生きがいの目標、活動の目標に関して担当ケアマネの意見を项目的にて提示した。そしてそれに基づき、前回作成したサービス計画書 (2) を修正または継続してケアプラン原案を作成し、担当者会に提出をした。

4. サービス担当者会議には、ご利用者本人および家族が多く参加できるように調整した。

ケアマネが主催し、上記のアセスメント表 1～3、モニタリング原案、ケアプラン原案素案、ケアプラン原案を順次説明し、ケアワーカー、看護師、管理栄養士、ケアマネがそれぞれの領域ごとに専門的な意見を述べ、ご本人・ご家族の意向を聞き、新しい計画についてご本人・ご家族と施設職員の合意により、ケアマネが取りまとめるかたちで担当者会を実施した。在宅復帰の可能性についても、ご家族の意向に踏まえて検討し結論を出す。

また、サービス担当者会は、当ご利用者の介護保険の要介護度更新認定時にできるだけ合わせて実施するように努めた。

5. サービス担当者会議後、担当ケアマネはモニタリング原案、ケアプラン原案、ケアプラン原案を加筆修正して、サービス計画書 (1)、サービス計画書 (2)、サービス計画書の要点 (第 5 表) を仕上げ、担当者会開催月内にご家族 (身元引受人) の同意を得て、交付するように努めた。

サービス計画書 (2) のサービス提供開始は担当者会開催月の翌月月初として、サービス計画書についてご家族の同意を得て交付した後に、サービスを開始する手順を整備した。

6. サービス担当者会議にご家族が参加できない場合には、ご家族の意向の聞き取りをして、サービス計画作成に反映させるように努めた。また担当者会議の開催後、電話等で討議した内容を報告し、ご利用者の状態および施設サービスの内容を十分理解していただくように努めた。電話で聞き取りをした内容はサービス計画書 (1) に記載した。

II、機能訓練の取り組みについて

1. 身体機能面で維持向上の課題があるとケアマネが判断したご利用者に関しては、ケアプランに挙げて意識的な取り組みを実施した。専門的なリハビリが必要なケース、新規入所者でリハビリ内容の評価が必要なケースなどは PT あるいは OT にリハビリ業務を担ってもらっている。それ以外は PT、OT などの専門職の指示に基づいて、ケアワーカーが簡単な訓練を実施した。

2. PT あるいは OT が実施しているリハビリ内容は記録に残して、他職種に周知する体制をとっている。またご家族からの要望がある時にはケアマネが要望を聞き取り、PT あるいは OT に伝えてスケジュールを調節して、出来るだけ希望に沿いながら、リハビリが実施されるようにした。PT あるいは OT とケアワーカーの協働体制でご利用者の身体機能の維持向上をはかる体制をとっている。

(4)看護部門

ご利用者の健康管理に努め、施設生活での安心した生活を送れるように早期発見、早期対応を目指した。職員の健康管理は、定期健診、職場内検診、腰痛対応策を実施し、健康面のサポートに努めた。

ア ご利用者の個別健康管理を充実する

日々の健康状態の管理、また、他職種との連携により、疾患などに対して早期発見できるように努めた。特に慢性疾患（心不全・閉塞性呼吸器疾患・糖尿病など）を持つご利用者の状態観察と病状悪化の早期発見・早期対応に努めた。

イ 感染対策に努める

感染対策として、日々、職員への周知や研修を行った。季節的なインフルエンザやノロウイルスなどの集団感染症について、施設内で全職員がマニュアルの厳守を徹底し、予防に努めた。平成 28 年 11 月に計 2 回の施設内の介護・看護職全員を対象に感染症対策についての研修を行った。

インフルエンザについては、職員、ご利用者共に 11 月に予防接種を受けたが、流行期が 2 月、3 月となり 1 月 31 日～2 月 8 日までご利用者 4 名、職員 1 名、3 月 23 日～28 日までご利用者 1 名、が罹患した。

その後終息したが、今後はさらにバイタルサイン観察・他職種との連携を密にし、感染予防・蔓延予防対策を徹底するため、保健所等による勉強会に積極的に参加していく。

ウ 肺炎・誤嚥性肺炎の発生予防に努める（口腔ケアの強化）

肺炎および誤嚥性肺炎の予防のため、口腔ケアの強化に努めたが、肺炎での入院者が 9 名、誤嚥性肺炎での入院者が 5 名であった。経管栄養で口呼吸の方には口内乾燥予防への指導・実施に努め、さらに必要時吸引の実施を行った。

65 歳以上の高齢者肺炎球菌予防接種対象通知のご利用者のうち、接種希望者 8 に接種を実施した。

エ 尿路感染症の予防に努める（排泄ケアの見直し）

陰部洗浄の必要性の指導と排泄ケアの見直しを行い、尿路感染症予防に努めた。

今後はさらに「水分摂取・陰部洗浄強化」を行っていく。

オ 蜂窩織炎の予防に努める

蜂窩織炎の既往のある方や、血行障害のあるご利用者、反復性の蜂窩織炎のご利用者は、特に皮膚状態の観察と白癬治療を徹底して行った。好発部位のみでなく全身の皮膚観察、治療・再発防止に努めた。

カ 褥瘡予防の取り組みを行う

出来てからの処置でなく、褥瘡予防の取組を行った。年 1 回職員研修を実施し、実践に生かした。OH スケールや食事摂取状態等、褥瘡発生のハイリスクの利用者は特に注意して皮膚状態の観察を行い、上期 2 名・下期 6 名（1 名入院先にて発生、1 名入所前に発生）の褥瘡発生がみられたが、早期発見・早期対応で悪化予防ができ、早期に治癒することができた。

キ 職員検診

各健康診断を行い、職員の健康管理にも努めた。

全職員対象に年 1 回の健康診断と夜勤者対象とした年 2 回の健康診断を実施した。腰痛

予防の検診は、ケアワーカー・厨房・看護師対象に年2回行った。

ク 機能訓練について

ご利用者の身体機能の維持向上を図るために、またサービス担当者会議で計画書を作成しそれに基続いて計画的に実施していった。サービス担当者会に参加し、残された機能を最大限に活用し、機能低下予防と維持向上のための計画を行った。

朝倉病院の作業療法士が毎週月・水の午前中に、理学療法士が毎週土曜日に、機能訓練を実施した。専門的な機能訓練が必要なご利用者および新規ご利用者を対象にして機能訓練を実施した。関係職員が連携を取り、その指導内容を担当ケアマネ、現場のCWに報告し周知徹底を図った。理学療法士による機能訓練の指導内容をケアマネが立案するケアプランに反映させて、統一して効率的な実施を図った。

PT・OTへの必要なケースについては、相談し、助言のもと、スタッフ間で情報共有し、日常生活に生かしていく事が出来た。

ケ 平成28年度 受診・入院状況（実人員）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
受診	81	31	34	32	40	33	30	33	39	39	41	41	424	35.3
入院	5	4	6	11	10	9	10	9	20	5	11	6	106	8.83

コ その他

肺炎球菌ワクチン補助事業は2年を経てご利用者の方19名が接種された。今後も肺炎予防に向け、ご利用者・ご家族の希望に応じて、予防接種勧奨を行いたいと考える。褥瘡ケアの考え方は、変化してきており、外部研修に参加し、知識の習得、実践で日々のケアに生かしていきたいと考える。

身体機能低下防止や維持向上・QOL向上に向けて、今後も関係職種との連携を図っていく。職員の健康管理にも努め、よりよい支援が提供できる環境を関係機関と協働し築いていく。

H27年度の介護保険改正に伴い、入所要件が要介護3以上となり、重度化するご利用者に対応できるよう内部・外部研修に積極的に参加し、職員体制・業務内容の見直し、強化をしていく。

(5) 給食部門

やすらぎの家で生活されるご利用者にとって、食事の楽しみは大きな部分を占めている。献立は季節を感じ、食べたいと思っていただける様な家庭的で楽しい食事を心がけた。きざみ菜、ごくきざみ菜、柔らか菜、ミキサー、ソフト食や糖尿食、減塩食などの

療養食の増加、食事の内容も複雑になり、手のこんだ献立が難しくなっている。
ソフト食は、普通食と同じ食材を展開させ、見た目にもおいしそうと感じていただけるよう型抜きをしたり職員がそれぞれ工夫をした。

ショートステイや配食サービスのご利用者も療養食や禁止食品のご希望が多くなり、できるだけご希望に添えるようにした。

調理員の欠員状態が続き、8月よりモリ・グリーンフーズに調理業務の一部委託となったが、新たな取り組みとしてグループ職員が毎日検食をしたり、美味しい食事を提供できるよう施設管理栄養士と委託業者が連携し業務に努めた。

1. 栄養ケア計画

グループ会や担当者会に、参加しご家族やご利用者の思いやご希望に添った食事提供ができるよう栄養ケア計画を実施した。

低体重、低栄養のご利用者には、多職種で検討し、補助食品を提供し改善を心掛けた。ご利用者の重度化、高齢化によりソフト食やミキサー食のご利用者が増加傾向にあるが、栄養が充分確保できるよう配慮に努めた。

2. 誤嚥の予防

トロミ食品や水分補給用のゼリー、誤飲予防や咽込みのあるご利用者の水分補給に対応した。ソフト食は、普通食と同じ食材から展開し、見た目を重視し型抜きや焦げ目をつけたり工夫をした。柔らか菜については、舌でつぶせるくらいの柔らか素材を取り入れ誤嚥予防に努めた。

3. 居酒屋

各グループの参加ご利用者が、多くなり普段食事摂取量の少ないご利用者も摂取量が増え、他グループのご利用者同士の交流も図れた。今後は、ご家族の方にも気軽に参加し、ご利用者と一緒に楽しんでいただけるよう声かけをしていく。

4. 行事食

四季の行事については、おせち料理、節分、ひな祭り、端午の節句、七夕、敬老の日、クリスマスなど、季節を感じ楽しんでいただける献立を取り入れた。

5. その他

食事時間には、巡回しご利用者のご意見や喫食状態の把握に努めた。

今後もしご利用者の声を聴きご利用者に関わり、充実した食事、見た目のきれいな楽しい食事の提供に努める。

	エネルギー	蛋白質	カルシウム
基準	1424 k Cal	57.3 g	600m g
平成28年度実績	1421 k Cal	56.1 g	609m g

(6)事務部門

1. 施設窓口としてご利用者やご家族、来客に対して明るく親切・丁寧な対応に努めた。
2. 月々の収支と予算執行状況を確認することで経費管理ができるようになってきた。
コスト意識も高まった。
3. 看護師の欠員補充が困難であったが、その他は効率良い協力体制が維持できた。
4. 今年度は屋内の修繕・補修に着手ができたのでご利用者にも喜んでいただけた。
少人数ではあったが、地域の方とご家族を交えて災害時対策訓練を実施することができた。今後も継続していきたい。

(7)生活相談員部門

1. 地域との交流窓口について
 - ・地域の夏祭りへ参加をさせてもらった。また、大規模災害に備えた防災訓練を企画し、地域の方々への参加の呼びかけを行なった。
 - ・踊りや清掃、高齢者との触れ合い、行事のお手伝いなどのボランティアを受け入れ、ご利用者の満足度の向上に努めた。
2. ご利用者・ご家族との相談窓口について
 - ・全ご利用者（ご家族）を対象とし、「施設サービス内容調査アンケート」を、今年度も実施した。
 - アンケート結果を元に、今後の改善策等をご家族に報告した。
 - ・年末年始の外出や外泊時の送迎の相談には、可能な限り対応できた。
3. 家族会相談窓口について
 - ・「やすらぎファミリー」の窓口となり、ご家族と共に、納涼祭のイベントや行事、年2回の施設内清掃を行なった。また、年2回「家族懇談会」を開催し、ご家族から意見・要望をいただいたり、施設からの報告を周知することができた。
4. 入所希望者・待機者の相談窓口について
 - ・入所を希望される方については、当施設の見学を勧め、料金を含めた施設の説明を行なった。入所待機されている方については、可能な限り待機場所へ調査に伺い、当施設での生活が可能かどうかの調査を行なった。
 - ・医療機関や介護保険施設への問合せや、パンフレットなどを持参し、当施設への入所が必要と思われる、入所申込者の確保に努めた。
5. 防災について
 - ・危機管理委員会のメンバーとして、災害時訓練の企画から関わり、実施することができた。また、同法人内の他事業所の災害時訓練や防犯訓練に参加した。

平成 28 年度 やすらぎの家 入所者状況（やすらぎの家 ご利用者状況）

市町村	高知市	土佐市	須崎市	香南市	四万十市	越知町	本山町	土佐町	いの町	中土佐町	中芸広域	仁淀川町	大阪市	黒潮町	計
男性	18	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
女性	66	8	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	87
計	84	9	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	106

年齢別人員

(平成 28 年 3 月 31 日 現在)

性別	～64	65～74	75～84	85～94	95～105	合計	最高	平均
男	1	3	7	8	0	19	93	80.8
女	3	6	20	46	12	87	98	85.9

入退所状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所者	男	0	1	0	0	2	0	1	0	1	3	0	1
	女	2	3	3	3	1	3	3	2	4	2	2	3
	計	2	4	3	3	3	3	4	2	5	5	2	4
退所者	男	0	1	0	1	1	1	0	0	2	3	0	1
	女	3	3	3	3	0	3	4	2	3	2	1	2
	計	3	4	3	4	1	4	4	2	5	5	1	3
月末人員	男	20	20	20	20	20	20	20	20	20	19	19	19
	女	86	85	86	86	85	86	85	85	85	86	87	87
	計	106	105	106	106	105	106	105	105	105	105	106	106

サービス利用状況

		要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
4月	延べ	60	120	722	1291	730
	実利用	2	4	25	47	27
5月	延べ	62	124	744	1396	779
	実利用	2	4	24	48	27
6月	延べ	60	120	720	1402	745
	実利用	2	4	24	48	27
7月	延べ	62	124	647	1552	592

	実利用	2	4	21	53	24
8月	延べ	31	155	685	1471	665
	実利用	1	5	23	51	26
9月	延べ	30	167	676	1444	634
	実利用	1	6	23	50	26
10月	延べ	31	176	712	1458	578
	実利用	1	6	24	51	24
11月	延べ	30	180	601	1447	655
	実利用	1	6	21	53	24
12月	延べ	31	186	617	1515	581
	実利用	1	6	21	54	23
1月	延べ	31	186	620	1634	579
	実利用	1	6	20	57	21
2月	延べ	28	168	480	1544	555
	実利用	1	6	18	60	21
3月	延べ	31	155	589	1705	613
	実利用	1	5	19	59	22

平成 28 年度 年間行事

月 日	行 事 名	来 園 者	施 設 側
4月6日	花見(たいよう) 針木浄水場		6名
	花見(つばさ) 針木浄水場		6名
4月7日	花見(たいよう) 針木浄水場		6名
4月16日	家族懇談会	37名	
5月17日	遠足(そよかぜ) ひろめ市場		2名
	遠足(こもれび) ひろめ市場		2名
5月23日	遠足(そよかぜ) ひろめ市場		3名
5月26日	遠足(さくら) 西島園芸団地		8名
6月2日	あじさい見学(たいよう) 春野あじさい神社		2名
	あじさい見学(つばさ) 春野あじさい神社		2名
6月5日	施設内清掃(やすらぎファミリー)	30名	
6月9日	あじさい見学(たいよう) 練歩会		3名
	あじさい見学(つばさ) 練歩会		2名
6月10日	あじさい見学(こもれび)		4名

6月15日	遠足(たいよう) 西島園芸団地	1名	5名
	遠足(たいよう) 西島園芸団地		5名
6月22日	遠足(さくら) 桂浜水族館		3名
6月23日	防災訓練		
7月25日	遠足(さくら) 宇佐しおかぜ公園		3名
8月5日	納涼祭		
8月11日	ユースホステル協会		40名
8月24日	くじら連ふくし丸		11名
9月19日	敬老の日行事 (鯉のたたき実演)		
	” (歳祝いの会、JA朝倉女性部による歌と踊り)	23名	
10月9日	遠足(つばさ) 土佐和紙工芸村蔵人		5名
10月13日	遠足(そよかぜ) 越知コスモス祭り		6名
10月22日	家族懇談会	24名	
10月23日	ハロウィン祭り(つばさ)		24名
11月6日	施設内清掃(やすらぎファミリー)	25名	
11月7日	菊花展見学(そよかぜ)		2名
11月8日	菊花展見学(さくら)		8名
	菊花展見学(こもれび)		4名
11月10日	遠足(つばさ) 高知県立美術館	3名	5名
11月25日	保育園児とのふれあい(朝倉中央保育園・木ノ丸保育園)	45名	
12月7日	防災訓練		
12月26日	餅つき		
1月3日	初詣(つばさ) 種間寺		2名
1月10日	初詣(そよかぜ) 種間寺		5名
	初詣(こもれび) 種間寺		2名
	初詣(さくら) 種間寺		1名
1月26日	初笑い新年会		
2月25日	災害ワーキング	19名	

*上記以外にも、居酒屋(月1回)、グループ毎に毎月の誕生日会や、季節の行事(節分の豆まき、クリスマス会等)、外出(買い物、外食、ドライブ、散歩等)を実施した。

平成 28 年研修参加名簿

日程	研修名	場所	開催者
5月13日	中央 B ブロック栄養士勉強会	ふくし交流プラザ	老施協
5月18日	中央ブロック看護職員研修会	特別養護老人ホーム 湯の里	老施協
6月2日 3日	四国老人福祉施設関係者研究大会	高知県立県民文化ホール	老施協
6月16日	認知症介護基礎研修	ふくし交流プラザ	県社協
6月19日	介護福祉士会初任者研修	ふくし交流プラザ	県介護福祉士会
7月23日	介護職員等喀痰吸引等研修(指導者講習)	ふくし交流プラザ	県社協
8月6日 9日	介護支援専門員更新研修 専門研修課程Ⅱ	ふくし交流プラザ	県社協
9月8日	全国労働衛生週間準備説明会	ちより街テラス 3F ホール	労働基準監督署
10月2日	利用者の健康を守る 健康管理・服薬管理研修会	ふくし交流プラザ	県社協
10月5日	施設内感染対策研修会	総合あんしんセンター	高知市保健所
10月13日	リスクマネジメント研修会	ふくし交流プラザ	県社協
11月11日	中央 B ブロック栄養士勉強会	うららか春陽荘	老施協
11月19日	チームケア、意識していますか?	ふくし交流プラザ	県介護福祉士会
12月7日	食と栄養の会	高知城ホール	県食と栄養の会
12月8日 9日	四国ブロックカントリーミーティング	徳島グランヴィリオホテル	老施協
1月12日	中央 B ブロック介護職員研修会	高知県立県民文化ホール	老施協
1月31日	ノーリフティングケア研修	ふくし交流プラザ	県社協
2月5日	福祉レクリエーションセミナー	特別養護老人ホーム あざみの里	県レクリエーション研究会
2月10日	中央 B ブロック栄養士勉強会	ふくし交流プラザ	老施協

	会		
2月22日	給食関係者研修会	総合あんしんセンター	高知市保健所
3月2日 3日	ノーリフティングリーダー 研修会	ふくし交流プラザ	県社協

平成28年度 ボランティア・施設見学等来園者状況

定期ボランティア 喫茶つどい 週2回(2名)

来園月日	団体(個人)名	来園目的	人数
4月16日	やすらぎファミリー	懇談会	36名
6月5日	やすらぎファミリー	館内清掃	30名
8月5日	やすらぎファミリー	納涼祭手伝い	4名
	平成福祉専門学校	納涼祭手伝い	
8月11日	ユースホステル協会	鳴子踊り	40名
8月24日	くじら連ふくし丸	鳴子踊り	11名
9月19日	JA朝倉支所女性部	敬老の日行事 歌と踊り	23名
10月22日	やすらぎファミリー	懇談会	24名
11月6日	やすらぎファミリー	館内清掃	25名
11月27日	朝倉中央保育園	利用者との交流	25名
	木の丸保育園	利用者との交流	20名
12月1日	NTT OB	車椅子清掃	17名

*上記以外にも、隣接する「平成福祉専門学校」の学生が授業の一環として、また、介助ボランティアとして、やすらぎの家へ来園し、ご利用者との触れ合いができた。

2 短期入所生活介護（ショートステイ）

短期入所生活介護（ショートステイ）の受け入れ窓口として思いやりを持った対応を心がけ、在宅で生活されている方々の日常生活動作の維持という観点を大切にし、ご利用者・ご家族共に安心してショートステイのサービスを利用していただけよう努めた。

可能な限り在宅生活の継続ができるよう、在宅での生活習慣に近いサービスの提供に努め、介護スタッフの協力の元、個別ニーズに応えることができた。

話しやすい・相談しやすい窓口としての役割に努め、ご家族との関わりを大切にした。利用中の様子のこまめな報告や、必要と判断された場合は、ご家族に相談の上、病院受診の援助も行なった。

居宅介護支援事業所の介護支援専門員やサービス提供事業所と連携を図り、ご利用者の状態把握に努めた。

H28年度 やすらぎの家（短期入所）サービス利用状況（介護保険請求者数による）

		要支 援 1	要支 援 2	要介 護 1	要介 護 2	要介 護 3	要介 護 4	要介 護 5	合計
4月	延べ			30	28	58	85	43	244
	実利用			4	3	5	8	5	25
5月	延べ			47	38	36	115	66	302
	実利用			4	3	4	9	5	25
6月	延べ			36	55	40	102	45	278
	実利用			4	7	4	8	4	27
7月	延べ			47	41	89	99	50	326
	実利用			5	7	10	7	5	34
8月	延べ			45	25	98	128	31	327
	実利用			5	4	10	13	3	35
9月	延べ			49	20	61	97	32	259
	実利用			5	4	6	12	2	29
10月	延べ		8	30	43	84	79	46	282
	実利用		1	4	5	9	7	10	36
11月	延べ		8	26	57	78	84	47	300
	実利用		1	4	7	10	8	3	33
12月	延べ		8	38	21	70	100	49	286
	実利用		1	4	3	6	10	3	27
1月	延べ		8	43	35	58	122	49	315
	実利用		1	5	7	4	11	3	31
2月	延べ		8	29	34	62	103	22	258
	実利用		1	4	6	6	11	2	30
3月	延べ		9	23	35	96	123	39	325
	実利用		1	2	5	10	11	3	32
合計	延べ		49	443	432	830	1237	519	3510
	実利用		6	50	61	81	115	48	361

3 グループホーム ほのぼのの家

訪問看護師による週1回の健康管理の実施や、体調不良時の対応も看護師と24時間体制で医療連携を図ることができ、ご利用者やご家族に安心していただけた。また、管理栄養士の献立に基づき栄養バランスのとれた食事を提供することができ、誕生会や行事

では職員が献立に工夫をし、いつもとは違ったメニューでご利用者に喜んでいただく事ができた。

環境面ではご利用者間のトラブルが日常的にあり、席の配置などその都度、検討し見直しするも改善には至っていない。

ご家族との信頼関係については、日頃より連絡を密にとりカンファレンスへの参加、餅つきや遠足、敬老会・新年会等、行事への参加を呼びかけ、交流を深める機会を持つようにしているが、ご家族も高齢の方や県外で生活をされている方もいるため、家族参加が少なくなってきたのが現状である。

ボランティアは傾聴・生花・ビューティーなどのボランティアが定期的に来所してくださり楽しいひと時を過ごす事が出来た。地域住民の方々には餅つきや防災訓練等に参加していただき、また、地域清掃に参加する事で地域との関わりを持つ機会に繋がった。

職員研修については、法人内部研修に参加することによりスキルアップには繋がったが、更に県外等、外部研修へ参加することにより視野が広がりスキルアップ・意識改革に繋がったのではないかと考える。

(1) 利用状況

①介護状態		②入居者年齢別		③入居前状況	
要介護1	1名	70歳～80歳	0名	自宅	2名
要介護2	1名	81歳～85歳	6名	老健	0名
要介護3	4名	86歳～90歳	0名	病院	6名
要介護4	1名	90歳～95歳	3名	その他	1名
要介護5	2名				

④日常生活自立度		⑤認知症の程度		⑥日常生活動作状況		
J I	0名	I	0名	歩行	自力	5名
J II	1名	II a	1名		一部	4名
A1	4名	II b	3名		車椅子	0名
A2	4名	III a	3名	食事	自力	5名
B1	0名	III b	2名		一部	3名
B2	0名	IV	0名		全介	1名
C1	0名			入浴	自力	0名
C2	0名				一部	7名
					全介	2名
				着脱	自力	1名
					一部	6名
					全介	2名

				排泄	自力	1名
					一部	6名
					全介	2名

(2) 入退所・入退院状況

入所者 2名 退所者 2名

入院者 2名 退院者 2名

入院者数2名。インフルエンザ、ノロウイルス等集団感染は見られなかった。

4月0名、5月0名、6月0名、7月0名、8月0名、

9月0名(1名やすらぎの家入所。1名新規入所)、

10月0名、11月1名(胆石性胆のう炎、胆管結石症、胆管炎性膿瘍の疑い)、

12月0名、1月0名、2月0名(1名県外施設に入所。1名新規入所)、

3月 1名 急性気管支炎。

(3) 活動状況

月	活動名	人数		活動名	人数
4月	花見(ドライブ)	6名	12月	餅つき	9名
				木の丸保育園児と交流	9名
5月	誕生会	1名		誕生会	1名
	遠足(西島園芸団地・外食)	9名			
			1月	初詣	9名
6月	紫陽花見物	6名		総合防災訓練	9名
	誕生会	1名		外食	9名
	総合防災訓練	9名		誕生会	2名
	外食	9名		外出・外食	2名
				新年会	9名
7月	納涼祭(わかくさの家)	3名			
	買い物	2名	2月	誕生日会	1名
	誕生会	2名			
			3月	誕生日会	1名
8月	さわやか里の夕べ	9名			

9月	買い物	2名	週1回	生け花クラブ	6名
	敬老会・家族会（1名）	9名	月2回	傾聴ボランティア（コミュニケーション）	2名
10月	秋の遠足（わんぱーくこうち）	9名	月1回	ビューティーボランティア	9名
11月	菊花展	2名			
	外食	2名			
	買い物	2名			

（4）内部研修状況

研修名「内部研修」	開催日	場所	参加者	参加者
接遇	5/31	平成福祉講堂	5名	1名
食中毒	6/30	くつろぎホール	9名	8名
人権	9/28	平成福祉講堂	5名	1名
誰もが幸せにくらすために （セクハラ・パワハラ）	11/18	平成福祉講堂	7名	7名
救命救急	11/2, 24, 30	くつろぎホール 1号館地下会議室	4名	1名
施設における感染症	11/10, 25	くつろぎホール	2名	2名
事例発表	1/20	平成福祉講堂	5名	1名

（5）外部研修参加状況

研修名	開催日	開催者	場所	参加者
施設内感染症対策研修会	10/5	高知市保健所	安心センター	2名

[2] うららか春陽荘 関連事業

総括

平成28年度の施設の運営状況は、特別養護老人ホームでは昨年に引き続きご利用者の入院が年間延べ2,200日にのぼり全体の在所率が91%にとどまるなど運営の課題となった。29年度は、この課題に取り組むため昨年度に多くの職員が受講した「ノーリフティングケア（抱えない・持ち上げない・引きずらない）」を推進しご利用者と職員の

健康増進を図る。

他方、ショートステイや空床ショート及びデイサービスはるかぜは目標を超えるご利用をいただき経営の底上げにつながった。また、一昨年に認可保育所となったキッズガーデンは、多くの園児にご利用いただくなど概して例年と同様の運営内容であった。

災害、特に南海トラフに対する対応は法人全体で指針を作りそれに応じた事業所のマニュアルに基づいて訓練等を実施した。昨年は2回目となる「災害ワーキング(防災訓練)」を地域の防災組織とともに9月に行った。今後とも継続して行う予定である。また昨年の相模原の障害者施設の事件を受けて、今年の1月に初めて高知南警察署の協力を得て防犯訓練を行った。初めての防犯訓練は色々と教えられることが多く不審者などへの対応に参考になることが多々あった。

今後ともご利用者やご家族に満足いただける施設として、地域の方々と連携し福祉の拠点、災害時の拠点として信頼される施設運営に取り組む。

1 特別養護老人ホーム うららか春陽荘

(1) 入所者の状況(平成29年3月31日現在)

ア 市町村別人員(名)

	高知市	土佐市	中芸広域連合	大豊町	日高村	計
女性	45	2	0	1	1	49
男性	27	2	1	0	0	30
計	72	4	1	1	1	79

イ 年齢別人員(名)

	～ 65 歳	65 ～ 70 歳	70 ～ 75 歳	75 ～ 80 歳	80 ～ 85 歳	85 ～ 90 歳	90 ～ 95 歳	95～ 100 歳	100 歳以 上	計	平均 年齢	最高 年齢	最低 年齢
男性	0	1	1	1	6	12	6	3	0	30	86.7	96	69
女性	0	2	1	3	3	18	14	6	2	49	88.6	103	68
計	0	3	2	4	9	30	20	9	2	79	87.9		

ウ 月間入退所者状況(名)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所者	男性	0	3	1	2	0	0	0	0	2	1	0	1	10
	女性	2	2	2	0	2	2	0	3	4	2	2	1	22
	計	2	5	3	2	2	2	0	3	6	3	2	2	32

退所者	男性	1	0	0	1	0	0	1	0	2	0	0	1	6
	女性	3	3	4	0	3	1	2	0	5	2	3	1	27
	計	4	3	4	1	3	1	3	0	7	2	3	2	33
月末人員	男性	26	28	29	30	30	30	29	29	29	30	30	30	
	女性	54	52	50	50	49	50	48	51	50	50	49	49	
	計	80	80	79	80	79	80	77	80	79	80	79	79	

エ サービス利用状況 延べ（日） 実利用（名）

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
4月	延べ	0	0	376	1096	755	2227
	実利用	0	0	13	38	27	78
5月	延べ	0	0	390	1255	686	2331
	実利用	0	0	13	43	23	79
6月	延べ	0	0	390	1068	690	2148
	実利用	0	0	15	41	25	81
7月	延べ	0	0	443	1094	744	2281
	実利用	0	0	16	37	25	78
8月	延べ	0	0	425	1087	735	2247
	実利用	0	0	16	37	25	78
9月	延べ	0	0	426	1024	759	2209
	実利用	0	0	16	36	27	79
10月	延べ	0	0	445	1038	729	2212
	実利用	0	0	16	35	26	77
11月	延べ	0	0	410	997	724	2131
	実利用	0	0	15	37	27	79
12月	延べ	0	0	420	981	782	2183
	実利用	0	0	16	36	27	79
1月	延べ	0	0	440	1011	798	2249
	実利用	0	0	16	35	28	79
2月	延べ	0	0	364	1055	711	2130
	実利用	0	0	13	39	27	79
3月	延べ	0	0	386	1127	826	2339
	実利用	0	0	13	38	28	79
合計	延べ	0	0	4915	112833	8939	26687
	実利用	0	0	178	452	315	954

オ 月間稼働率 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	92.9	94.1	89.2	91.9	90.6	92.0	89.7	88.8	87.9	90.8	95.0	94.3	91.4

(2) 介護部門

総括

目標と掲げていたご利用者の「個別性の重視」と「安全・安心・快適」の実現に向けて日々のケアを実践した。

肺炎予防の取り組みとして「しあわせ・やさしさ」をモデルグループとして、医療との連携を強化し口腔ケアなどの実施をした。特養全体での入院者数は増加しているものの、肺炎の診断数は減少しており、取り組みの一定の効果があったものとする。

介護事故については行政に報告すべき重大事故が22件発生しており、事故種別としては「転倒・転落」が大半を占めていた。24時間付き添うことが不可能であることや、「身体拘束」は原則として行わないことなどから、事故予防が非常に困難なケースが多くあった。一方、誤薬（遅薬）も発生しておりマニュアル遵守の徹底が今後の課題となっている。

新しい取り組みとして高知県の推進する「ノーリフティングケア（持ち上げない・抱えない・引きずらない）」研修に参加し、ご利用者の重度化予防と職員の腰痛予防へのアプローチを行った。取り組みの中でご利用者の良い「変化」も確認できているため、次年度も引き続き取り組むこととする。

(各ユニット報告)

なごみ・ひかりグループ

ご家族の面会時には積極的にコミュニケーションを図り、ご本人の生活歴や思いを聞き取り職員間での情報共有に努めた。しかし、その情報をケアの根拠に活かすことが十分ではなかったという課題が残った。

ぬくもり・よろこびグループ

24Hシートの活用を継続的に行い、ご利用者の当たり前の生活にアプローチを行った。

また、シートの活用は新人職員の育成や実習生の指導にも十分な効果を発揮した。

ただ、入退居のご利用者数が例年より多く、新規ご利用者の24Hシートの作成が十分ではなかった。

たのしみ・ほほえみグループ

ご利用者の個別性を重視するために24Hシートの作成に取り組んだが、全ご利用者のシート作成、活用まで到達しなかった。ご利用者の状況変化や新規入居のアセスメントに時間がかかったことが大きな要因であった。

しあわせ・やさしさグループ

施設内外の多職種との連携を強化し口腔ケアを中心に感染予防に取り組んだ結果、肺炎の減少には一定の効果があったと考える。また、年度途中から高知県が推進する「ノーリフティングケア」の実施に向けてモデルグループとして参加し、その理念と技術の基礎作りを実施した一年となった。

(3) 介護支援専門員

- ア ご利用者のその人らしい生活の実現のために、アセスメントを通じて計画を作成し、実施した。園芸・手芸が趣味であったご利用者と話し合いをし、地域の園芸教室への参加の計画・実施や、手芸店へ一緒に買い物に行き、ご自身で材料を選び、編み物にチャレンジするといった、個別性の高い生活へのアプローチを行った。
- イ ご利用者の健康管理については、多職種との連携により具体的な介護内容を計画書に反映し取り組んだ結果、肺炎の発症率を軽減することができた。

(4) 生活相談員

- ア ご利用者、ご家族の思いを大事に、支援の計画・実施を行った。昔なじみの理容室への外出支援や長年、会っていなかった家族との再会の場の調整など、思いに寄り添った関わりを実施した。
- イ 肺炎や尿路感染症などの予防を目的とし多職種での連携を強化した。ノーリフティングケアの研修の参加にあたり、施設内の多職種でチームを作り、日常的にもチームでの活動を心がけた。

(5) 健康管理部門

看護師のユニット担当制は継続したものの、そのメリットとしての機能は十分に発揮出来なかった。その意義や必要性を再確認し次年度は取り組みを強化する。感染症予防のための活動として、ノーリフティングケア研修参加のためのチームでの活動にて連携強化を図る等、これまでにない取り組みは行ったが、全体での入院者数（日数）は増加しており、明らかな効果としては見られていない。ただし、積極的に口腔ケアやノーリフティングケアを取り入れたグループについては、肺炎の診断者数が減少したという成果も見られている。

感染対策委員会を中心に修正などを行った「感染対策マニュアル」は全職員に周知し、徹底を呼びかけた。結果、季節特有の感染症に対して、職員数名の罹患は確認されたものの、施設内での拡大にはつながらず、マニュアル遵守の効果ではないかと考える。

受診状況（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
56	52	55	49	52	57	35	37	45	42	47	54	581	48.4

入院状況（日）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
154	122	240	190	223	181	255	256	265	197	88	126	2297	191.4

(6) 栄養部門

嗜好調査を2回実施する計画を立てていたが、1回のみの実施となった。ご利用者の重度化により意思表示が難しく調査の内容、方法が適切であったかどうかも課題である。少ないながら具体的に「うどん」「シチュー」が食べたいという意向も確認できたため、献立に反映させ提供を行った。

朝食の主食（ご飯、パン）に合わせた副食の提供は、実施することが出来ず同一メニューの提供となった。

年間を通じて調理員の確保が課題となり、少ない職員数での活動であり、優先すべきは日々の安心・安全な食事提供であると考えた結果、新たな活動まで実施できなかったことが課題である。

平均栄養摂取量 平成29年3月31日 現在

利用者 70歳以上 男性 29名 女性 48名
60歳~70歳 男性 1名 女性 2名

	熱量(kcal)	蛋白質(g)	カルシウム(mg)
必要栄養量	1450	50	600
実施栄養量	1423	57.1	506

(7) 事務部門

ア 施設の窓口として親切、丁寧な対応を心がけた。防犯の観点からご来荘者には氏名などの記載と名札を使用して頂くこととなり、業務としては少し煩雑になったものの、結果としてコミュニケーションを図る機会が増えたことはメリットと考える。また、毎朝の玄関周辺の清掃を実施し、気持ち良い空間の提供に努めた。

イ 個人情報の管理については部門で徹底を行い、トラブルなく一年を終えることができた。

ウ 経費削減は意識をして取り組みを行ったが、開設9年目となり多くの備品の修繕、買い替えの対応を行ったため、経費支出の増額となった。

(8) 行事・ボランティア一覧

月日	内 容	ボラン ティア	参 加 者					計
			特養	シヨ ート	デイ	職員	家族 等	
4/3	どろんこ祭り	30	10	0	5	2	0	47
4/19	楽団ブルースカイ	12	22	2	18	10	0	64
5/10	家族会（特養実施）	0	0	0	0	20	43	63
5/6	秦しのぶ 「唄と踊りの夢一座」	7	20	2	20	6	2	57
6/10	ミュージックラバー	1	10	5	25	10	0	51
7/4	うららか保育園との交流 七夕飾り	35	10	2	10	8	0	65
7/6	七夕流しそうめん	0	30	5	10	20	10	75
7/17	なかよし会	10	25	5	10	6	1	57
7/24	土用の丑の日	0	70	10	25	10	0	115
8/17	①大正琴みませ教室 ②カラオケ	10	30	5	20	10	1	76
8/24	くじれ連よさこい鳴子踊り	10	80	20	25	10	0	135
9/8	筑前琵琶保存会	7	20	2	20	5	0	54
9/19	①敬老の日式典 ②コーラス大篠	10	40	0	0	15	20	85
11/9	つくしの会	10	25	5	20	7	0	67
11/25	長い坂の会美術展	30	80	20	30	30	30	220
12/21	日曜会	3	16	2	24	6	2	53
12/13	平和幼稚園お遊戯披露	18	0	0	20	5	0	43
12/16	いきいき百歳体操 「お楽しみ会」	15	10	0	0	2	0	22
12/25	餅つき	30	20	3	5	11	1	70
12/28	フォトコンテスト	0	40	0	0	40	30	110
3/5	コーロツッチー	8	20	0	5	3	0	36
3/31	オリオリ長浜	8	20	5	10	5	1	49

定期ボランティア

内容	頻度	参加者数
紙芝居	月 2 回	約 10 名
傾聴ボランティア	月 2 回	約 10 名
食事介助	週 1 回	
ポエム	月 2 回	約 20 名
甘粕塩田	月 1 回	約 20 名

2 居宅サービス事業部門

(1) 短期入所生活介護 うららか春陽荘（ショートステイ）

自宅での生活に出来るだけ近づけるよう、ご本人やご家族と十分に話す機会を持ち、居室の環境整備や私物の持ち込みなどを実施し、落ち着いて過ごせる施設作りを行った。また、利用中の心身の状況を記録に残し、自宅での生活や今後のケアプランに反映してもらえよう、情報共有を行った。

利用実績（介護給付）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護 1	延	88	106	83	112	113	104	100	114	110	137	120	94	106.8
	実	13	18	17	19	17	18	18	20	22	25	21	18	18.8
介護 2	延	180	176	151	130	155	152	119	113	105	93	93	128	132.9
	実	29	28	25	21	31	25	25	24	21	23	20	22	24.5
介護 3	延	157	131	166	190	195	175	208	184	199	187	157	190	178.3
	実	20	18	26	22	25	24	29	24	27	22	26	25	24
介護 4	延	113	102	122	104	93	101	116	83	71	62	93	97	96.4
	実	17	15	15	15	14	15	13	14	12	10	14	14	14
介護 5	延	55	40	34	48	33	42	46	36	64	79	66	66	50.8
	実	8	4	7	7	5	7	7	5	9	10	10	10	7.4
一日平均		19.8	17.9	18.5	18.8	19	19.1	19	17.7	17.7	18	18.9	18.5	

利用実績（予防給付）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
支援 1	延	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	
	実	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	
支援 2	延	3	4	0	5	0	0	0	0	1	2	0	0	
	実	1	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	

月間稼働率（%）（介護給付＋予防給付）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	92	89.5	92.7	94.2	95	95.7	95	88.3	88.6	90	94.5	92.7	92.3

(2) デイサービスセンターはるかぜ

ご利用者の「通いたいデイサービス」を実現するため、これまで実施していた内容を一部見直した。ご利用者それぞれのご意向に沿えるよう、複数の活動スペースを準備し、ご本人の思いでそれぞれの活動をしてもらった。また、OT やマッサージ師との連携により、機能訓練へのアプローチもこれまでより密にでき満足度向上につながったと思われる。

利用実績（介護給付）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護 1	延	221	228	237	236	288	300	301	244	233	264	249	297	258
	実	22	25	24	21	24	28	28	24	25	29	28	28	25.5
介護 2	延	191	215	179	234	211	230	234	244	229	184	165	214	211
	実	16	16	15	17	20	18	17	18	18	16	16	15	16.8
介護 3	延	222	197	183	134	144	183	182	190	209	240	226	210	193
	実	19	19	16	14	14	17	18	18	17	18	20	20	17.5
介護 4	延	140	166	130	138	132	75	82	87	74	56	54	50	98.7
	実	13	14	13	12	12	9	9	9	9	6	6	7	9.92
介	延	34	35	29	25	28	22	27	36	29	31	25	29	29.2

護 5	実	4	4	3	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3.25
一日 平均		26.9	27.1	25.3	24.7	25.9	27	26.6	26.7	25	25	25.7	25.8	26	

利用実績（予防給付）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
支 援 1	延	22	20	27	28	20	27	30	33	29	15	15	16	23.5
	実	4	4	4	4	4	5	5	5	3	2	2	2	3.7
支 援 2	延	7	12	9	9	8	10	10	11	9	12	10	11	9.8
	実	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.1
一日 平均		0.9	1	1.2	1.2	0.9	1.2	1.3	1.4	1.2	0.9	0.9	0.9	1.1

月間稼働率（%）（介護＋予防）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	93	93.9	88.2	86.5	89.4	94.1	93.1	93.9	87.3	86.2	88.6	88.9	90.3

(3) デイサービスセンターそよかぜ

ご利用者のプライバシーに配慮し、個別で過ごせる場所や活動スペースを確保し、個々の思いに寄り添える環境を提供した。また、ケアの基本をコミュニケーションと考え、その重要性を職員間で共有し実践した。活動の結果、ご利用者の周辺症状の緩和や表情が柔らかくなるなどの効果も見られたため、継続して活動を行う。

利用実績（介護給付）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介 護 1	延	40	53	52	52	46	50	53	43	64	56	44	48	50.1
	実	5	5	6	5	5	5	5	4	5	5	4	4	4.8
介 護 2	延	44	47	39	44	35	48	53	26	27	33	39	51	40.5
	実	4	4	3	3	3	4	5	3	3	5	5	5	3.9
介	延	81	91	85	88	88	71	75	39	16	18	19	27	58.2

護 3	実	7	7	8	8	8	7	6	3	3	2	3	4	5.5
介 護 4	延	26	27	37	45	46	41	39	49	66	73	68	66	48.6
	実	2	2	3	3	3	3	3	4	6	6	6	5	3.8
介 護 5	延	6	5	13	5	4	5	5	5	51	51	34	27	17.6
	実	2	1	2	1	1	1	1	2	4	4	3	3	2.1
一 日 平 均		6.6	7.2	7.5	7.6	7.1	7.2	7.3	5.4	7.2	7.5	7.3	7.1	7.1

月間稼働率（%）（介護＋予防）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	54.7	59.9	62.8	62.9	58.9	59.7	60.5	45	60.2	62.1	60.7	58.9	58.9

在宅部門勉強会実施一覧

実施月	テーマ	参加者数
6月	介護保険制度	19名
7月	身体拘束・虐待	21名
9月	認知症について	18名
11月	感染症予防	32名
3月	リスクマネジメント	14名
	接遇	17名

3 居宅介護支援事業所はるの

高知市の各地域での勉強会に積極的に参加し、その内容を事業所内の勉強会などで共有し、自立支援の理念に基づいた計画作成を行った。また、ご利用者の生活を十分なものにするためには様々な資源の活用が必須となるため、包括支援センターや民生委員、行政書士、生活消費センター等との連携を密にした。

対象者の計画作成だけでなく、地域の福祉のために宅老所や地域の集まり（老人会、婦人会）へ出向き、認知症の啓発や介護保険の説明等を行った。

給付管理数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護	126	126	131	129	128	127	132	130	129	129	129	135	129.3
予防	22	17	21	22	22	26	26	32	31	31	34	34	26.5
合計	148	143	152	151	150	153	158	162	160	160	163	169	155.8

4 高齢者住宅等安心確保事業（横浜ニュータウン）

30世帯の入居者に対して、日常生活を安心して送ることができるよう支援を行った。主な支援としては毎日朝夕の安否確認であり、密にコミュニケーションを図った。その中で、7～9月は「熱中症（脱水）」「水分補給」についての注意喚起を行った結果、それによる体調不良者が出なかったことは1つの成果と考える。

サニーマートとの連携により移動スーパーが団地に来てくれるようになり、入居者の利便性も向上した。

活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活指導・相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
安否確認	305	328	393	334	391	346	321	327	315	306	357	383	4106
一時的な家事援助	0	2	19	27	29	23	22	16	20	20	35	49	262
緊急時の対応	3	0	1	2	0	0	2	2	6	0	4	1	21
関係機関との連絡	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	2	7
その他のサービス	15	13	21	14	6	14	12	11	13	10	11	10	150

その他活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
百歳体操	4	3	5	0	0	4	4	3	4	3	4	4	38
カラオケ	2	2	2	0	0	2	2	2	2	2	2	2	20
書道	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	10

*7.8月はボランティア担当の都合で開催なし

5 うららかキッズガーデン（事業所内保育事業）

4月は入所児童が1名、継続児童が2名で3名のスタートとなった。徐々に増加し3月に定員に達したが、途中入所は、兄弟と同じ保育所に入所するまでの短期間の児童が

多かった。2歳児までという年齢制限や、途中入所しても、翌年度には兄弟の保育所に転園する等で年度始めの入所児童確保が厳しい状況である。5月以降の途中入所で早期に定員に達するよう対策を講じる必要がある。

入所児童数（定員 11名）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職員	0歳	0	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	4
	1歳	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域	0歳	0	0	0	1	1	2	2	2	2	2	2	2
	1歳	2	2	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	2歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		3	4	4	8	8	9	9	9	9	9	10	11

- ア 職員の配置、役割分担や子どもへの声のかけ方など、職員間で日々確認や見直しを行い、1対1の関わりを大切にする保育を実践した。
- イ 施設の行事への参加や、施設内でご利用者と挨拶や会話をして日常的にも交流ができた。今後、施設の世代間交流をより効果的にするために、目的や効果を保育者、介護者で共有し連携する必要がある。
- ウ 保護者が話やすい雰囲気を作り、信頼関係構築、維持に務め、育児の相談、悩みに丁寧に対応した。
- エ 朝夕の送迎時にご家族とのコミュニケーションを密に図り情報共有に努めた。苦情受付対応件数は0件であった。

6 各種委員会活動

(1) 事故防衛パトロール隊

施設内での事故を一件でも防ぐことを目的とし活動を行った。中でも初めて「なぜなぜ分析（事故要因を探る手法）」という内部研修を開催したが、これまでにない視点での研修であり、参加した職員からも好評であった。また、誤薬ゼロに向けて、啓発ポスターの掲示やグループ会でのマニュアルの音読など地道な活動を継続した。

(2) ケア向上委員会

虐待リスクシートを活用し、事例を通じてそのリスクの検証、職員間での共有を行い虐待防止に向けて取り組み、虐待、身体拘束共に0件であった。

(3) 感染予防対策委員会

感染対策マニュアルの見直しと周知を行い、対策とマニュアル遵守の徹底を呼びかけた。

インフルエンザ、ノロウィルスの集団発生もなかったことから、職員の感染対策に対する意識向上が図れていると考える。また、施設内で疥癬の発生が一例あったが、対策会議、マニュアルに沿った対応により、感染拡大もなく終息することができた。

(4) 褥瘡バスターズ委員会

OH スケールによるご利用者全員の褥瘡リスクの管理、研修への参加などにより職員の知識、技術は向上した。施設での発症者を0名の目標は達成できなかったが、褥瘡・表皮剥離発生件数は前年度から減少できた。

(5) 安全衛生委員会

ストレスチェック制度施行に伴い第一回目のストレスチェックを実施した。初めての取り組みであったため、準備から実施、評価まで多くの時間がかかったが、滞りなく実施することができたが、結果に基づいた活動が検討課題として残った。

(6) 美化委員会

委員会でグループを作り、施設内の清掃を定期的実施した。また、法人の生活改善委員会との協働により、ご利用者の車いすの清潔保持の意識付けと清掃を実施した。

(7) 研修委員会

施設内での研修についての企画・運営は各委員会にて実施したため活動実績はなかった。ただし、委員会毎での開催は日程調整、周知、実施の負担も大きいため、次年度は計画を立てて活動することが必要である。

(8) 災害対策委員会

BCP（事業継続計画）作成、災害ワーキング、防犯マニュアルの作成、防犯訓練の実施など、多くの活動を行った。BCPについては高知県より「高知県南海トラフ地震対策優良取組事業所」に認定されたことは活動の評価として励みとなった。また、法人内で始めて高知県南警察署の協力のもと防犯訓練を実施し、多くの課題が見つかったことも収穫であった。

7 研修参加状況

(1) 特別養護老人ホームうららか春陽荘

月	日	開催地	研修会名	研修内容	主催者	参加人数
	1	春陽荘	内部研修	平成28年度事業計画について	うららか春陽荘	45
4	7~9	京都市	おむつフィッター2級 研修B講座	紙おむつ・ポータブルトイレメーカーによるプレゼンテーション	はいせつ用具の情報館 むつき庵	2
	12	高知市	認定調査員新規研修会	要介護認定に関する基本的な考え方	高知県高齢者福祉課	1

	22	高知市	高知県老人福祉施設協議会 21世紀委員会第1回代表委員会	四国老人福祉施設関係者研究大会について	高知県老人福祉施設協議会	1
	23	高知市	西分地区自主防災ネットワーク会総会	西分地区自主防災ネットワーク会総会	西分地区自主ネットワーク会	1
5	10	日高村	介護職員中央ブロック研修会	介護人材育成について	高知県老人福祉施設協議会	2
	13	高知市	中央ブロック 栄養士勉強会	摂食嚥下の基礎と口から安全に食べるために	高知県老人福祉施設協議会	1
	18	高知市	第1回看護職員中央ブロック研修会	今年度の活動予定	高知県老人福祉施設協議会	1
	18・20	春陽荘	内部研修	AED救急法について	うららか春陽荘	28・26
	24	春陽荘	内部研修（接遇研修）	自分の気持ちを伝えるコミュニケーション	(社)長い坂の会	62
	25	春野町	あったか春野ふれあい交流会実行委員会	第2回あったか春野ふれあい交流会について	春野地区社会福祉協議会	2
	31	平成福祉	内部研修（接遇研修）	自分の気持ちを伝えるコミュニケーション	(社)長い坂の会	20
6	2～3	高知市	四国老人福祉施設関係者研究大会	地元とともに未来へ歩む	高知県老人福祉施設協議会	3
	3～4	京都市	おむつフィッター2級研修	紙おむつ・ポータブルトイレメーカーによるプレゼンテーション	はいせつ用具の情報館むつき庵	2
	5	高知市	リスクマネジメント研修	リスクマネジメントの視点から接遇を学ぼう	高知県介護福祉士会	4
	6	高知市	ノーリフティング研修（第1回）	ノーリフティングの理解及び推進に向けた意識統一	高知県地域福祉政策課	6
	13	高知市	ケア基本研修	知識編	高知県社会福祉協議会	2
	14	高知市	クッキングライブ	セルフクッキングの機能と実用性について	(株)フジマック	4
	14	春陽荘	内部研修	排泄ケア研修	うららか春陽荘	25
6	17	高知市	中央ブロック生活相談員・介護支援専門員合同勉強会	実施指導監査について	高知県老人福祉施設協議会	2
	19	高知市	高知県介護福祉士会初	ご利用者の褥瘡予防と介	高知県介護福祉士会	3

			任者研修（介護技術編）	介護職員の腰痛予防（ノーリフティングケア）について		
	20～21	高知市	福祉職場の新任職員研修会	福祉サービスの基本理念と福祉職員のこころがまえ	高知県社会福祉協議会	3
	20	高知市	高知県老人福祉施設協議会施設長会	情勢報告と対応について	高知県老人福祉施設協議会	1
	21	春陽荘	内部研修	排泄ケア研修	うららか春陽荘	32
	25	高知市	高知ふくし機器展バリアフリーフェスティバル	褥瘡・創傷・足病予防のための地域作り	高知福祉機器展実行委員会事務局	4
	26	高知市	高知ふくし機器展バリアフリーフェスティバル	摂食・嚥下障害への援助急性～回復～維持期～在宅までの関わり	高知福祉機器展実行委員会事務局	5
	29	春陽荘	内部研修	食中毒について	うららか春陽荘	68
7	5	高知市	ノーリフティング研修（第2回）	事例対象者の取り組み立案	高知県福祉研修センター	8
	6	やすらぎ	内部研修	セクハラ・パワハラ相談員研修	（社）長い坂の会	2
	15	高知市	高知県老人福祉施設協議会第2回理事会	平成 28 年度の事業進捗状況について	高知県老人福祉施設協議会	1
	15	高知市	介護職員中央Ｂブロック研修会	平成 28 年度の介護人材育成について	高知県老人福祉施設協議会	2
	15	平成福祉	内部研修	新人研修	（社）長い坂の会	5
	19	高知市	ケア基本研修	動作・排泄編	高知県社会福祉協議会	2
	22	高知市	南海トラフ地震対策優良取組事業所認定制度説明会	事業継続計画（BCP）による南海トラフ地震に負けない事業所づくり	高知県危機管理部南海トラフ地震対策課	1
	31	高知市	姿勢管理・基礎研修	身体の基本的な構造と動き	（社）高知県社会福祉協議会	3
8	1～4	春陽荘	内部研修	AED取扱いについて	うららか春陽荘	67
	6	高知市	西分地区自主防災ネットワーク会	うららか春陽荘との合同防災訓練について	西分地区自主防災ネットワーク会	1
	10、15	春陽荘	内部研修	第2回 排泄ケア研修	ユニチャーム（株）	28

	12	高知市	ノーリフティング研修 (第3回)	介護福祉機器・用具の適切な管理について	高知県福祉研修センター	8
	12	高知市	栄養士勉強会	経管栄養について	高知県老人福祉施設協議会	1
	19	高知市	ケア基本研修	生活ケア編	高知県社会福祉協議会	2
	20	高知市	サマーカレッジ2016	事例報告、チームケアについて	(社) 秦ダイヤライフ 福祉会	5
	26	春陽荘	内部研修	事故防止・なぜなぜ分析について	うららか春陽荘	28
	31	高知市	姿勢管理 アドバンス 研修	姿勢管理の基本、シーティング・ポジショニング、生活場面での姿勢	(社) 高知県社会福祉協議会	2
9	7	高知市	食と栄養の会研修会	最期まで食べる支援を成功させるコツ	高知県 食と栄養の会	1
	8	高知市	ノーリフティング研修 (第4回)	福祉機器・用具の整備や使い方、ケアの提供の仕方	高知県社会福祉協議会	12
	16	梶原町	中央Bブロック生活相談員・介護支援専門員合同勉強会	B C Pについて 防犯について	高知県老人福祉施設協議会	1
	28	平成福祉	内部研修 (人権)	一人ひとりの幸せのために	(社) 長い坂の会	40
	30	高知市	高知県老協21世紀委員会各ブロック会	高齢者虐待防止研修～職場内におけるモラルについて	高知県老人福祉施設協議会	1
10	5	高知市	施設内感染対策研修	施設内における感染症対策	高知市保健所	2
	12・13	高知市	高知県老協事務職員研修会	次期改定に向けての課題と対策	高知県老人福祉施設協議会	1
	12	高知市	ケア基本研修	生活ケア編	高知県社会福祉協議会	2
	13	高知市	安全運転管理者講習	安全運転管理者講習	高知県公安委員会	1
	13	高知市	現場で活かすためのリスクマネジメント研修会	リスクマネジメントの基本を学ぶ	高知県社会福祉協議会	2
	17	高知市	ノーリフティング研修 (第5回)	平成27年度受講施設・事業所からの取り組み発表	高知県社会福祉協議会	12

	19	高知市	平成 28 年度看護職員中央ブロック研修会	医療行為・意見交換	高知県老人福祉施設協議会	1
	10/19 11/1 11/16 12/6 12/21 1/18 2/15 3/7 3/15	高知市	高知家統一基本ケアセミナー	姿勢と動き 排泄 スキンケア 見えと聞こえ 認知症 介護予防	高知家統一基本ケアセミナー	9
	10/21 ～ 10/22 11/18 ～ 11/19 12/13 ～ 12/14 1/20 ～ 1/21	高知市	ケアリーダー研修会	利用者の生活全体を考えた支援チームで実践していくために	高知県社会福祉協議会	2
	23	高知市	記録の書き方（施設編）	介護記録の基礎	高知県介護福祉士会	2
	26	春陽荘	内部研修	褥瘡研修会	うららか春陽荘	26
	28	高知市	春野町乳幼児・児童・生徒等地震避難対策連絡会	避難所と避難所運営マニュアルについて	春野防災ネットワーク会	2
	30	高知市	褥瘡ケア 基礎研修	褥瘡発生のメカニズムと現在の治療法	高知県社会福祉協議会	3
11	5	高知市	高知県看護協会研修	ケアの質の向上と腰痛予防を両立させるノーリフトケア	高知県看護協会	1
	12	高知市	コミュニケーション研修会	認知症・障害・疾病など多様なご利用者との接し	高知県介護福祉士会	2

				方について		
	11/9 ～ 11/10 12/7 ～ 12/8	高知市	介護福祉士実習指導者講習会	介護過程の理論と指導方法 スーパービジョンの意義と活用及び学生理解	高知県介護福祉士会	1
	9	須崎市	介護職員中央Bブロック研修会	介護人材育成について	高知県老人福祉施設協議会	1
	11	高知市	中央Bブロック栄養士勉強会	防災について	高知県老人福祉施設協議会	1
	11・30	春陽荘	排泄ケア研修	排泄に関わる感染症について	うららか春陽荘	36
	15・ 12/1	春陽荘	内部研修	ノロウイルス・インフルエンザの対応について	うららか春陽荘	63
	18	平成福祉	セクハラ・パワハラ	誰もが幸せに	(社) 長い坂の会	32
	19	高知市	第2回NEX勉強会	チームケア、意識してますか	高知県介護福祉会	1
	20	高知市	記録の書き方(居宅編)	介護記録の基礎	高知県介護福祉士会	2
	21	高知市	ノーリフティング研修(第5回)	平成27年度受講施設・事業所からの取り組み発表	高知県社会福祉協議会	12
	28	高知市	現場発信! タウンミーティング(高知会場)	平成30年を見据えた介護報酬改定への対応	全国老人福祉施設協議会	1
12	8~9	徳島市	四国ブロックカンツリーミーティングIN徳島	地域共生社会をつくる日本型介護・福祉	高知県老人福祉施設協議会	2
	8	高知市	中央Bブロック生活相談員・介護支援専門員合同勉強会	肺炎予防・感染症対策について	高知県老人福祉施設協議会	1
	9	高知市	褥瘡ケア アドバンス研修会	すぐ実践! 現場を変える褥瘡ケア	高知県社会福祉協議会	3
	22	高知市	南海トラフ地震及び長期浸水被害に関する説明会	南海トラフ地震及び長期浸水について	高知市健康福祉部	1
	23	高知市	高知ノーリフト推進協議会	ノーリフト推進協議会立上に伴う事前協議	高知ノーリフト推進協議会	6
1	10	高知市	平成28年度認定調査員	認定調査の基本的な考え	高知県高齢者福祉課	2

			現任研修会	方伝わる特記事項の書き方		
10	高知市		認定調査員現任研修会	認定調査の基本的な考え方、伝わる特記事項の書き方	高知県高齢者福祉課	2
12	高知市		ケア基本研修（動作・排泄編）	姿勢と動き・ノーリフトと腰痛予防	高知県社会福祉協議会	4
12	高知市		第4回介護職員中央Bブロック研修会	次年度の研修内容	高知県老人福祉施設協議会	1
16	高知市		高知市と高知県老人福祉施設協議会（高知市内施設）との意見交換会	定款変更・総合事業移行について	高知県老人福祉施設協議会	1
20	平成福祉		内部研修	リーダーを中心に取り組む事例発表	(社)長い坂の会	64
21	高知市		ケアリーダー研修会第4課程『研修取組発表』	研修取組み発表	高知県社会福祉協議会	2
21～22	東京都		医療的ケア教員講習会	介護職員等による医療的ケアの実施に関する制度の概要についての知識を身につける	日本介護福祉士養成施設協会	1
24～26	高知市		日本ノーリフト協会コーディネーター養成講座	ベーシックコース	生き生きサポートセンターうえるば高知	2
27	高知市		水害・土砂災害への備えに関する要配慮者利用施設の管理者向け説明会	防災気象情報の活用について	高知県高齢者福祉課	1
31	高知市		ノーリフティング研修報告会	各事業所実践報告	高知県	8
2	3	高知市	社会福祉施設総合保険制度説明会	平成29年度の社会福祉施設総合保険制度について	高知県社会福祉法人経営者協議会	1
6～7	高知市		日本ノーリフト協会コーディネーター養成講座	アドバンスコース	生き生きサポートセンターうえるば高知	2
10	高知市		中央Bブロック 栄養	実施指導監査の報告	高知県老人福祉施設協	1

			士勉強会		議会	
17	平成福祉	内部研修	新人研修Ⅱ	(社) 長い坂の会	8	
18	高知市	福祉の仕事 はじめの 一歩講座	知っておきたい基礎用 語・知識	高知県福祉研修センタ ー	2	
23	高知市	介護・福祉施設における リスクマネジメント	介護・福祉施設における 事故事例とその対応	高知新聞社	3	
24	高知市	高知県老人福祉施設協 議会 21 世紀委員会総 会・高知県カトリックミ ニスターズ	アンダーマネジメントを 活用した怒りの感情をコ ントロールする方法	高知県老人福祉施設協 議会	1	
27	岡山市	社会福祉法人会計実務 者決算講座	社会福祉法人制度改革に より求められる事業運営 の透明性と会計担当者の 役割	全国社会福祉協議会	1	
2	高知市	栄養士・介護職員合同研 修会	福祉施設での食の重要性 について	高知県老人福祉施設協 議会	5	
2～3	高知市	ノーリフティングリー ダー研修	リーダー職員が技術に自信 を持ち現場に帰ってノー リフティングケアが実践 できる	高知県 高知県福祉研修センタ ー	1	
4	高知市	福祉の仕事 はじめの 一歩講座	良くわかる！認知症の基 本	高知県福祉研修センタ ー	2	
8	高知市	平成 28 年度第 3 回看護 職員中央ブロック研修 会	今年度の反省等	高知県老人福祉施設協 議会	1	
13	高知市	平成 28 年度第 2 回民間 社会福祉施設職員退職 手当共済事業運営委員 会	第 2 回運営委員会	高知県社会福祉協議会	1	
15	高知市	高知県老協介護支援 専門員・生活相談員研修 会	高齢者福祉施設で知って おきたい介護事故判例と リスクマネジメント	高知県老人福祉施設協 議会	1	
16	高知市	高知県老人福祉施設協 議会中央 A・中央 B ブ ロック合同施設長会	情勢報告	高知県老人福祉施設協 議会	1	
18	高知市	西分地区自主防災ネッ トワーク役員会	平成 29 年度総会	西分地区自主防災ネッ トワーク	1	

	17、24	春陽荘	内部研修	排泄ケア研修	うららか春陽荘	37
	25	高知市	高知おむつフitter 連絡会	高知県内のおむつフitter との情報交換会と勉 強会	生き生きサポートセン ターうえるば高知	2
	28	高知市	日本ノーリフト協会コ ーディネーター養成講 座	アドバンスコース	生き生きサポートセン ターうえるば高	2

(2) デイサービスセンターはるかぜ

月	日	開催地	研 修 会 名	研 修 内 容	主 催 者	参加 人数
5	30	高知市	介護予防・日常生活支援 総合事業に関する説明会	総合事業の概算及び本市 の現状	高知市高齢者支援課	1
1	27	高知市	水害・土砂災害への備え に関する要配慮者利用施 設の管理者向け説明会	防災気象情報の活用につ いて	高知県高齢者福祉課	1
2	23	高知市	介護・福祉施設における リスクマネジメント	介護・福祉施設における 事故事例とその対応	高知新聞社	1
3	18	高知市	デイサービス稼働率アッ プセミナー	稼働率アップセミナー	全国デイサービス事例 研究所関西元気ネット ワーク	2

(3) デイサービスセンターそよかぜ

月	日	開催地	研 修 会 名	研 修 内 容	主 催 者	参加 人数
6	16	高知市	高知県認知症介護基礎研修	認知症の人の理解と対応 の基本	高知県高齢者福祉 課	1
7	7~11 7/13~ 8/9・ 8/24	高知市	高知県認知症介護実践者研 修『実践者研修』	認知症高齢者の内面理解 ができ、介護の実践力を習 得する	高知県高齢者福祉 課	1
	3	高知市	高知県リハビリテーション 研究大会	本人が語る過去、現在、そ して未来	高知県リハビリテーション 研究大会	1
	19	高知市	自立を目指すケア研修会	第1回研修会 講義	高知市介護保険課	1
8	11	高知市	自立を目指すケア研修会	第2回研修会 事例検討 会	高知市介護保険課	1

10	30	高知市	自立を目指すケア研修会	第3回研修会 事例検討会	高知市介護保険課	1
12	12	高知市	自立を目指すケア研修会	第4回研修会 事例検討会	高知市介護保険課	1
3	11	松山市	デイサービス稼働率アップセミナー	稼働率アップセミナー	全国デイサービス事例研究所関西元気ネットワーク	2

(4) 居宅介護支援事業所はるの

月	日	開催地	研修会名	研修内容	主催者	参加人数
4	11	高知市	南部地域ケアカンファレンス	南部地域ケアカンファレンス実行委員会	高知市医師会	1
5	21	高知市	高知市居宅介護支援事業所居議会総会	日常生活支援総合事業に関する説明会	高知市居宅介護支援事業所協議会	2
6	6	高知市	南部地域ケアカンファレンス	南部地域実行委員会	南部地域ケアカンファレンス実行委員会	2
	17	高知市	西部地域医療カンファレンス	家族介護がない独居患者を自宅で看取るため	西部地域医療カンファレンス実行委員会	4
	27	高知市	介護予防支援従事者研修会	介護予防ケアマネジメントに関する講義及び演習	高知市高齢者支援課	3
7	3	高知市	若年性認知症研修会	若年性認知症になっても社会とつながって生きる	高知市居宅介護支援事業所協議会	3
	7/2~ 7/5 7/15~ 7/16 7/24~ 7/25	高知市	高知県介護支援専門員専門研修 (専門研修課程Ⅰ)	ケアマネジメントにおける実践の振り返り及び課題の設定	高知県社会福祉協議会 福祉研修センター	2
	24	高知市	どうなる？どうする？ 高知の介護と高齢者の暮らし	高齢者アンケートから見えてくる介護保険制度と生活課題	高知県自治研究センター	1
	25	高知市	南部地域ケアカンファレンス実行委員会	南部地域実行委員会	高知市医師会	1

	27	高知市	ほのぼの mini に関する操作説明会	ほのぼの mini 使用開始手順、基本操作方法	高知市高齢者支援課	2
9	9/2～10/8	高知市	高知県主任介護支援専門員研修	主任介護支援専門員の役割と視点	高知県社会福祉協議会 福祉研修センター	1
	7	高知市	ケアマネジメントに必要な医療講座	高齢者の疾患の特徴	高知市高齢者支援課	3
	23	高知市	西部地域医療カンファレンス	地域でつなげる認知症～どこに相談したらいいのかな	西部地域医療カンファレンス実行委員会	3
	26	高知市	南部地域ケアカンファレンス実行委員会	第4回実行委員会	高知市医師会事務局	1
10	3	高知市	若年認知症の当事者、家族と支援者の連絡会を立ち上げるための協議会	協議会を立ち上げるための事前打合せ	高知県リハビリテーション研究会	1
	16	高知市	世界アルツハイマーデー記念講演会	認知症の人を支える	認知症の人と家族の会高知県支部	1
	26	高知市	高知県介護支援専門員実務研修見学にかかる説明会	実務研修、見学実習について	高知県高齢者福祉課	2
11	18	高知市	南部地域ケアカンファレンス	南海トラフ巨大地震時における南部地域の被害予測と医療介護従事者の役割を考える	南部地域ケアカンファレンス実行委員会	5
12	12	高知市	南部地域ケアカンファレンス実行委員会	ケアカンファレンス	高知市医師会	1
	14	高知市	南部ブロック会	暫定ケアプランによる給付の考え方	南部ブロック居宅介護支援事業支所	5
1	18	高知市	南部ブロック会	多職種多機関見える事例検討会	南部ブロック居宅介護支援事業支所	5
	30	高知市	南部地域ケアカンファレンス実行委員会	第6回ケアカンファレンス実行委員会	高知市医師会	1
2	10	高知市	若年認知症の当事者、家族との支援者の連絡会	若年認知症について	高知県リハビリテーション研究会	1
	18	高知市	高知県高齢者こころのケアサポーター養成研修	基礎研修振り返り	高知県社会福祉協議会	1

			フォローアップ研修			
3	3	高知市	西部地域医療カンファレンス	在宅移行困難事例の検討	西部地域医療カンファレンス実行委員会	2
	17	高知市	南部地域ケアカンファレンス	第20回ケアカンファレンス	高知市医師会	5
	26	高知市	高知県医療ソーシャルワーカー協会大会	地域の中で生活を支える専門職の役割と立ち位置	高知県ソーシャルワーカー協会	2
	28	高知市	南部地域ケアカンファレンス実行委員会	平成29年度実行委員会について	高知市医師会事務局	1

(5) うららかキッズガーデン

月	日	開催地	研修会名	研修内容	主催者	参加人数
4	12	高知市	高知市乳児（1歳未満児）保育研修	乳児の保育・保健・栄養の基礎知識の習得	高知市保育幼稚園課	1
5	19	高知市	高知市保育所給食関係職員研修会	保育所給食における衛生管理	高知市保育幼稚園課	1
6	14	高知市	高知市保育所給食関係職員研修会	保育所給食における衛生管理	高知市保育幼稚園課	1
	30	高知市	アレルギー対応研修会	アレルギーとアナフィラキシーの基礎知識とその対応	高知市保育幼稚園課	1
7	14	高知市	高知市乳児（1歳未満児）保育研修	子どもたちを心身共に健康やかに育ていくために	高知市保育幼稚園課	1
12	13	高知市	保育所・幼稚園等におけるクラス運営実践研修会	子どもの行動を見て、支援を考える	高知市子ども育成課	1
	16	高知市	特定地域型保育事業者に対する集団指導	高知市の指導監査に方針等について	高知市指導監査課	2
1	31	高知市	保育所・幼稚園等におけるクラス運営実践研修会	子どもの行動を見て、支援を考える	高知市子ども育成課	1

8 実習・研修受け入れ

(1) 特別養護老人ホームうららか春陽荘

月	日	団体（個人）名	実習・研修目的	人数
---	---	---------	---------	----

4	22	特別養護老人ホーム葉山荘	入浴設備、作業マニュアル、新人教育	3
	4/25～5/2	ニチイ学館 高知支店	介護職員初任者研修	1
5	11	平成福祉専門学校（1年生）	介護総合演習・施設見学	39
6	3	高知県立春野高等学校	仕事に関するインタビュー	3
	6/13～ 7/16	平成福祉専門学校（2年生）	介護福祉実習（第3段階）	5
	21	高知大学医学部	プライマリケア地域医療実習	6
	28	高知大学医学部	プライマリケア地域医療実習	6
7	1	高知北高等学校（夜間部3・4年生）	職場見学	7
	5	高知大学医学部	プライマリケア地域医療実習	6
	19	高知大学医学部	プライマリケア地域医療実習	6
	26	高知大学医学部	プライマリケア地域医療実習	6
	28～30	高知県立春野高校 2年生	インターンシップ	3
8	2	高知大学医学部	プライマリケア地域医療実習	6
	9	高知県立大学	見学訪問	1
	8/9～9/3	高知県立大学	介護福祉実習Ⅱ	2
	9	岡山美作大学	見学訪問	1
	10	平成福祉 初任者研修受講	見学訪問	10
	23	高知大学医学部	プライマリケア地域医療実習	6
9	6	高知大学医学部	プライマリケア地域医療実習	6
	9/9～10/8	ニチイ学館 高知支店	介護職員初任者研修	1
10	4	高知大学医学部	プライマリケア地域医療実習	6
	17～28	平成福祉専門学校	介護福祉実習（第1段階）	5
	24～28	介護労働安定センター	実務者研修	4
	25	高知大学医学部	プライマリケア地域医療実習	6
11	11/1～ 11/8	ニチイ学館 高知支店	介護職員初任者研修	2
	11	高知県立大学社会福祉学部 1回生	体験学習	15
	15	高知大学医学部	プライマリケア地域医療実習	6
	29	高知大学医学部	プライマリケア地域医療実習	6
12	1	高知介護福祉アカデミー	施設見学	6
	6	高知大学医学部	プライマリケア地域医療実習	5
	9	高知商業高等学校（平成福祉専門学校主催）	体験学習	35
	12	高知商業高等学校（平成福祉専門学校主催）	体験学習	35
	13	高知商業高等学校（平成福祉専門学校主催）	体験学習	36

	20	高知大学医学部	プライマリケア地域医療実習	6
1	17	高知大学医学部	プライマリケア地域医療実習	5
	1/23～ 2/11	平成福祉専門学校	介護福祉実習 第2段階	4
	24	高知大学医学部	プライマリケア地域医療実習	5
2	13	高知県立城山高等学校（2年生）	福祉教育授業	16
	2/14～ 3/20	高知県立大学	介護福祉実習Ⅲ	2
	21	高知大学医学部	プライマリケア地域医療実習	6
	25	高知県老人福祉施設協議会	愛知県・名古屋市老施協 21世紀委員会 施設見学	14
3	6～24	平成福祉専門学校	介護福祉実習（第2段階）	3
	10～16	ニチイ学館高知校	介護職員初任者研修	2
	17・21・22	高知介護福祉アカデミー	介護職員実務者研修（求職者支援訓練）	1

(2) デイサービスセンターはるかぜ

月	日	団体（個人）名	実習・研修目的	人数
10	24～28	介護労働安定センター	実務者研修	4

(3) デイサービスセンターそよかぜ

月	日	団体（個人）名	実習・研修目的	人数
10	24～28	介護労働安定センター	実務者研修	4

(4) 居宅介護支援事業所はるの

月	日	団体（個人）名	実習・研修目的	人数
2	13	高知県社会福祉協議会	高知県介護支援専門員実務者研修受入	2

[3] 在宅介護センターわかくさ関連事業

総括

3年に1度行われる介護保険事業計画による、度重なる介護報酬減に伴い、厳しい経営状況ではあるが、センター全体として経営改善に努めることができた一年であった。小規模多機能型居宅介護、訪問入浴介護、居宅介護支援の各事業は、利用増加等に繋がることができ、安定経営に近づきつつあり、中でも訪問入浴事業については、サービスに対する高評価に加え、職員による日々の営業努力等により、大幅な経営改善が行えた。一

方、通所介護、認知症対応型通所介護は、利用低迷に苦慮し、厳しい1年となったが、センター全体での経営改善は、各事業所職員の努力により、一定の成果となり表れている。

利用者に対するサービス面では、各事業所にて行事も含め、様々な取組みを実施し、利用者サービスの向上に努めることができた。ただ、各事業所共に、それぞれの特性と専門性を生かしたサービスとは言えず、今後の団塊の世代が後期高齢者に達する「2025年問題」や厚生労働省の推進する「地域包括ケアシステム」を見据えたサービス展開に取り組む必要がある。

地域に対する活動では、あさくら出張所の相談・支援業務等の他、朝倉小学校区、朝倉第二小学校区の各地域内連携協議会や朝倉街づくりの会等への積極的な参加により、朝倉地域から高い評価を得ている。また、センターとしても、納涼祭等の行事や鶴来巢町内会イベント、会合等へ参加し、協力体制の構築に努めることができ、隣接する朝倉第二小学校4年生による「スマイル大作戦」も継続し行われ、地域福祉の一助に努めることができたと思われる。

1 デイサービスセンター くつろぎの家

<介護面>

28年度はご利用者の「やる気」を支援する活動や満足度の向上を図る為の取組みが十分ではないが幾つか行う事が出来た。またデイサービスにご利用者が気持ち良く来所して頂けるようにと、「5S活動」にも取り組む事が出来た。身体機能の維持・向上につながる支援も一部の利用者ではあるが個別に実施し集団でのレクリエーションや体操も行い参加して頂くことで、他者との交流や楽しみながらの心身の活性化を図ることが出来た。「サービスの質の向上」に向けての取り組みとしての月に1度の勉強会は不十分であったので29年度も「サービスの質の向上」を図る事は課題であり、言葉使いやご利用者への対応の仕方、専門性や関連知識等を高める研修等への参加は行っていきたい。

<運営面>

28年度の実績も目標値に達する事は出来なかった。登録数には十分達していたが、入院やその他の休み等が予想以上に多かった事が要因であった。またご利用になかなか繋がらないケースも多かった。営業面では新規事業所からの紹介や新しいケアマネからの紹介も増え、実利用者数は増やす事は出来たので29年度に繋げていきたい。その他の支出面でも業務の流れ等の見直しを行いまだまだ課題は残るものの残業を減らす事への取り組みは行えた。

<行事等>

4月	各種サークル活動
5月	母の日（おやつクッキング）・各種サークル活動・朝倉第二小学校交流
6月	父の日（おやつクッキング）・各種サークル活動
7月	各種サークル活動
8月	よさこい鳴子踊り子来園・各種サークル活動
9月	敬老会・各種サークル活動
10月	各種サークル活動
11月	各種サークル活動
12月	年忘れ会・各種サークル活動
1月	各種サークル活動
2月	節分・各種サークル活動
3月	各種サークル活動

<要介護延利用者数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	273	247	234	198	202	213	245	210	225	211	173	195	2629
要介護2	142	147	108	115	141	139	192	209	157	160	144	199	1853
要介護3	200	203	213	233	230	204	107	147	177	171	198	201	2284
要介護4	61	60	23	34	31	41	47	51	49	51	35	50	533
要介護5	50	55	67	61	55	56	74	89	91	66	54	74	792
合計	726	712	645	641	659	653	665	706	699	659	604	722	8091
1日平均	24.2	23.0	21.5	20.7	21.3	21.8	21.5	23.5	22.5	21.3	21.6	23.3	22.2
平均介護度	2.27	2.34	2.35	2.45	2.39	2.37	2.27	2.43	2.46	2.39	2.43	2.45	2.38

<介護予防延利用者数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	14	13	8	7	9	8	9	9	7	9	8	9	110
要支援2	44	45	46	44	39	36	31	30	30	21	20	12	398
総合事業 要支援1													
総合事業	8	7	8	8	7	8	9	10	14	27	18	23	147

要支援2													
合計	66	65	62	59	55	52	49	49	51	57	48	44	685
1日平均	2.2	2.1	2.07	1.90	1.77	1.73	1.58	1.63	1.65	1.84	1.71	1.42	1.80

2 デイサービスセンターわかくさの家

<介護面>

本年度は、ご利用者の何気ない一言や行動の一つから、どのような思いを持っているのか、なぜ、その様な行動になるのかを想像し、ご利用者の持つ世界観に少しでも近づき、ケアに繋げる事を目標に努めてきた。職員からは、想像力を豊かにする為には、知識や経験、そして何よりもご利用者を知る事が必要であり、柔軟性がなければケアに繋げる事が出来ないと感じたとの反省点が上がっており、研修や勉強会、また介護だけではなく色々な事に興味を持つ事が来年度の課題となる。

家庭的な雰囲気大切に、ご利用者と共に楽しむ事が少しずつではあるが、自然に行えるようになってきており、その気持ちを大切にしながら、今後もチームケアの強化を行っていききたい。また、情報公開の際、マニュアルがかなり古くなっている事に気が付き、職員も目を通した事のない者が多かった。基本に戻り統一したケアを提供するためにも、古くなったマニュアルを職員皆で検討し更新していききたいと考えている。

<運営面>

本年度も、目標の数字を達成できなかった。わかくさの家を長年利用下さっているご利用者が、徐々に介護を必要とする事が多くなり、ご家族の介護負担軽減の為、ショートステイの利用が増えた事、新規の依頼が少なかった事が大きな要因である。ホームページの更新も細目に出来ておらず、「わかくさの家」をアピール出来ていなかったと反省している。職員からは、ご利用者の出来る事にも介助してしまっているとの反省があり、来年度の課題となる。ただ、体験利用された方は必ず利用に繋がりたいという思いで皆で対応を工夫し、ほぼ利用に繋がっている事や、数が増えない中、無駄な支出を抑える為に職員間で何度か工夫、検討しながら業務改善を行い、時間外労働が減少したことは良かった点である。ご利用者に必要な事はしっかり行い、無駄な動きを無くす事を来年度も継続していききたい。

<わかくさの家年間行事>

4月	誕生会・お好み焼きパーティー・
5月	誕生会・蒸しパン作り・生け花・大正琴ボランティア慰問
6月	ジャムパン作り・おやつバイキング・朝倉第二小学校交流
7月	誕生会・流しソーメン・納涼祭

8月	誕生会・蒸しパン作り・よさこい踊り子隊慰問・居酒屋
9月	お月見だんご作り・敬老会・居酒屋
10月	芋羊羹作り・ミニ運動会・朝倉第二小学校音楽会見学・居酒屋
11月	誕生日会・クッキー作り・NTT ボランティア慰問・朝倉第二小学校交流
12月	年忘れ会・餅つき
1月	プリンアラモード作り
2月	誕生会・チョコレートフォンデュパーティー・居酒屋
3月	誕生会・生け花

<要介護延利用者数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	7	9	14	11	13	14	12	13	14	13	12	9	141
要介護2	84	86	90	62	54	56	67	67	67	59	65	84	841
要介護3	18	11	13	24	39	43	40	57	43	39	38	47	412
要介護4	52	59	58	52	60	53	50	33	48	42	29	31	567
要介護5	5		14	7			4	14	13	12			69
合計	166	165	189	156	166	166	173	184	185	165	144	171	2.0 30
1日平均	7.90	7.50	8.59	7.43	7.22	7.55	8.24	8.36	8.41	7.50	7.20	7.43	7.78
平均介護度	2.78	2.73	2.83	2.88	2.88	2.81	2.81	2.83	2.89	2.88	2.58	2.58	2.79

3 小規模多機能型居宅介護 わかくさ

今年度は登録数もまずまずで平均も目標を達成することが出来た。依然、利用者の平均介護度は2.1と低かったが、ニーズとしては通いも訪問も柔軟にサービスが必要な依頼が多かった。年間を通して新規依頼が12件に対して登録解除も10件と多く、長期入院や入所などが続き、安定した支援にも厳しい現実がある事が見えた一年だった。

利用者処遇ではまだまだ個々のニーズや「ライフサポートプラン」には到達できてなく努力が必要である。ただ、少しずつ地域資源を活用しながらサービスに組みこんで行く体制はできつつあり、職員の考え方も以前よりは広い視野で検討できるようになっているので今後も楽しみである。

職員処遇面での外部研修や他施設との連携が思うように達成出来なかったため、次年度は必ず実現できる方向で動いていきたい。特に外部研修は職員の希望にもあるため全職員参加に向けて検討する。

<行事>

4月	お花見ドライブ（桜&つつじ） 誕生会 居酒屋	10月	白寿祝賀会 防災訓練 地域参加あり 地区運動会 いきいき百歳大交流会（3名参加） 外食（3名参加） 針木地区交流（新高梨農家） 朝倉第二小音楽祭 招待 向日葵見学（故郷巡り・土佐市） 居酒屋
5月	白寿祝賀会 大正琴演奏会 買い物（生活支援プログラム） 平成福祉専門学生交流 誕生会 居酒屋 運営推進会議	11月	誕生会 菊見学 朝倉第二小交流（二回目） わかくさ美術展見学 買い物（生活支援プログラム） 居酒屋 運営推進会議
6月	あじさい見学（ドライブ） 誕生会 居酒屋 映画鑑賞（DVD） 朝倉第二小交流（一回目） 買い物（生活支援プログラム）	12月	年忘れ会 誕生会 もちつき 居酒屋
7月	在宅介護センターわかくさ納涼祭 誕生会 ハス・向日葵見学（土佐市） 運営推進会議	1月	誕生会 居酒屋 運営推進会議
8月	誕生会 居酒屋 よさこい踊り子来演 おやつ作り 買い物（生活支援プログラム）	2月	新年会 誕生会 居酒屋
9月	バイキング（敬老） 敬老会 誕生会 居酒屋 運営推進会議	3月	誕生会 防災訓練 居酒屋 運営推進会議

<介護度別利用者数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1													
要支援2				1	1	1	1	1	1	1	1	1	9
要介護1	14	13	13	12	11	12	11	10	9	10	10	10	135
要介護2	3	4	4	6	7	7	7	9	10	9	9	9	84
要介護3	5	5	5	6	7	4	5	5	5	6	5	4	62
要介護4	2	1	1	1	1	2	2	1	1	1	2	1	16
要介護5	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	26
計	27	25	25	28	29	28	28	28	28	29	29	28	332
平均介護度	2.14	2.0	2.0	2.07	2.14	2.07	2.14	2.11	2.14	2.14	2.17	2.18	2.10

<機能別延利用状況>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通い	342	322	339	372	392	380	370	373	434	395	380	390	4489
訪問	478	525	505	460	559	616	582	586	575	625	587	583	6681
宿泊	89	84	83	88	94	100	89	81	97	78	76	76	1035
計	909	931	927	920	1045	1096	1041	1040	1106	1098	1043	1049	12205

<研修報告（内部・外部）>

	内部研修	外部研修
4月	28年度事業計画	
5月	接遇 法人研修：接遇「自分の気持ちを伝える」	
6月	感染症 ～食中毒～ 手指手洗い実技	認知症基礎研修（2名）
7月	防災について 法人研修：新人研修Ⅰ	認知症基礎研修（1名） 自立を目指すケア研修会（1名：1回目）
8月	熱中症について	自立を目指すケア研修会（1名：2回目）
9月	救急法 法人研修：人権	
10月	自分を知る ～心理テスト～	自立を目指すケア研修会（1名：3回目） 認知症実践者研修（1名）

11月	防災について 法人研修：ハラスメント	
12月	お酒と健康について 法人研修：新人研修Ⅱ	自立を目指すケア研修会（1名：4回目） 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修（1名） 高齢者虐待防止研修（1名）
1月	緊急時の対応 法人研修：リーダー事例発表	
2月	高齢者虐待について 法人研修：新人研修Ⅱ	
3月	振り返り ～平成28年度～	

4 高知市在宅介護支援センター あさくら

(1) サービスの状況について

<利用者数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護 1-2	95	89	90	96	93	100	106	108	113	111	108	114	1223
要介護 3-5	42	47	50	49	54	53	53	51	49	49	54	49	600
要支援 1-2	34	34	36	36	41	39	36	35	40	38	35	35	439
計	171	170	176	181	188	192	195	194	202	198	197	198	2262

平成28年度ケアマネージャー5名（6月から1名追加）の体制にて、年間延2262件のケアプランを作成した。月平均では188.5件。予防件数を半数でカウントすると、ケアマネージャー1人あたり月平均33.95件であった。

<加算の状況（要介護ケースのみ）>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初回加算	3	7	13	6	6	7	10	6	7	4	10	8	87
特定事業所加算Ⅱ	138	136	140	145	147	153	159	159	162	160	162	163	1824
入院時情報提供 連携加算Ⅰ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
小規模多機能型 連携加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退院退所加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
予防初回加算	1	2	1	1	3	1	0	1	0	1	0	3	14

入院や老人保健施設への一時的な入所ケースに対して、医療機関や施設関係者との必要な連携を行い、連携加算・退院退所加算を算定した。今後も、必要な連携を積極的に行うことで、安心して入院入所や在宅復帰ができるよう支援を行う必要がある。主任介護支援専門員1名兼任と専任介護支援専門員4名の職員配置にて特定事業所加算Ⅱの算定を行い、24時間の相談体制、困難事例の受け入れ、定期的な研修、適切なケアマネジメントに努めた。

(2) 適切なケアマネジメントについて

- ア 介護保険の理念である「自立支援」の考え方にに基づき、適切なマネジメントを心がけた。

委託にて介護予防ケアプラン作成し（総合事業も含む）、必要なケースに対し介護保険予防サービスに加え地域開催の「いきいき百歳体操」参加を計画し、介護予防への取り組みと同時に、地域で住民同士の繋がりがあがる生活を送ることができるようケアマネジメントを行った。その結果、介護度の改善に伴い、介護保険サービス利用回数軽減、また介護保険サービス利用が終了となるケースもあり、自立支援への効果も得られている。
- イ 医療ケアニーズのあるケースに対して、介護保険サービス（訪問看護・居宅療養管理指導）の計画、また必要なケースに対しては医療保険サービス（医療訪問看護・往診など）の計画を行うことで、健康管理、必要な医療ケアを受けながら在宅生活を継続できるよう提案しケアプランを作成した。今後も、医療機関からの退院や重度者の在宅生活受け入れ体制がとれるよう、多職種との連携が重要と考える。
- ウ ご利用者への関わりだけではなく、介護者であるご家族の介護負担軽減を目的とし各種サービスの計画を行った。レスパイト目的のデイサービスやショートステイ、老健入所、医療機関への入院（相談）などを各関係機関と連携をとり、介護者の負担軽減を図り、長期の在宅介護が可能となるよう努めた。
- エ 独居・高齢夫婦世帯・障害者を含む世帯・共働き子供世帯との同居など、さまざまな理由にて介護保険サービスのみでは生活が困難なケースに対して、高齢者福祉サービス・障害者福祉サービス・民間サービス（配食サービス・自費ヘルパーなど）を提案したケアプランを作成し、在宅生活を支えることに努めた。
- オ 定期的に行われている西部ブロック会への参加を始め、高知県や高知市の主催する研修に参加をし、ケアマネージャーとしての資質向上、介護保険や高齢者福祉に関する知識を広め深めた。また、事業所内でも週1回定期会を開催し、随時にケース検討や制度の確認を行い、職員の資質向上に努めた。

(3) センターとしての活動

居酒屋、納涼祭、餅つきなどの行事を通じて地域の方と交流を図ることができた。

5 高知市西部地域高齢者支援センター あさくら出張所

個別の総合相談・支援対応については、相談を受けた後、迅速な対応を心がけ、管轄高齢者支援センターや居宅介護支援事業所、医療機関、民生委員等と連携を図り適切な支援を心掛けた。

地域活動については、地域の会に積極的に出向き、地区内の関係団体との情報交換、関係づくりを行い、地域の身近な「相談窓口」としての出張所の啓発を行った。また、高齢者の介護予防活動について、高知市社会福祉協議会等の関係機関と連携し、いきいき百歳体操や認知症サロンの新規開催・継続を中心に支援を展開した。

(1) 地域活動

○地域活動

地域の高齢者の集いの場（うぐるすサクラの会年間行事、野の花昼食会、フルーツのイトウ昼食会、宅老所たんぼぼ朝倉、市民会館ミニデイ、大谷団地サロン等）や地区内のお祭り（鶴来巣町内会納涼祭、わかくさふれあい祭り等）、民児協主催敬老会、百歳体操、サロン等に参加し地域の方と情報交換をしたり、健康・介護に関する情報提供を行った。

朝倉まちづくりの会には出張所職員2名が交代で毎月参加し、高齢者が安心して暮らせる街づくりについて地域住民や高知大生等と協議している。平成29年4月から、まちづくりの会企画のフリーマーケット店舗が開所、今後、地域住民の集いの場としての活用が見込まれており、高齢者支援の立場から提言・協力していきたいと考えている。

平成27年度に設立された朝倉小学校区・朝倉第二小学校区地域内連携協議会には、出張所職員が地区分担し定例会に参加、地域内の団体代表者と顔の見える関係づくりを行い、地区内の行事等への参加要請が増えている。連合防災会からは防災訓練への参加要請があり、防災面で高齢者支援の観点から協力していく目的で参加開始することとした。

出張所主催のサロン「お茶屋」は、参加者の固定化、出張所職員だけの支援不十分さ等の事情で、今年度一杯で中止し、在宅介護センターわかくさ職員全体で取り組み、地域貢献を広く行うことを目指した、認知症カフェ「よつ葉カフェ」を平成29年5月より新規開催することとなった。認知症カフェの継続・広報の支援を行い地域の新たな集いの場として発展できるよう協力していく。

認知症サポーター養成講座は8月6日に‘ここからクリニック’、11月17日に‘りんりんカフェ’にて開催。他地区講座には6カ所で協力、西部地域高齢者支援センターや他出張所と連携し、住みなれた地域で安心した生活ができるよう啓発に取り組んだ。

百歳体操については、開催希望の声が聞かれた地区でお世話役さんに積極的に働きか

け、5月に針木元気クラブ、6月にあけぼの百歳体操会、11月に針木寺ヶ谷公民館が新規開催できるよう支援を行うことができた。平成29年度には在宅介護支援事業所サイタでの新規開催の動きがあり、百歳体操空白地域での体操開催を関係機関や地域住人と協力し進めている。

朝倉の地域課題について検討するためのマップ作りが医療生協からの声掛けで、平成29年1月24日に開催され参加、情報交換し地域の課題を確認。今後、課題の解決策を検討予定。

(2) 総合相談・支援

ア： 地域住民からの相談、各種申請代行依頼、昨年度からの継続ケースのモニタリング、安否確認等、通常業務において訪問を原則に実態把握し支援を行った。把握した情報は、高知市要援護者台帳へ登録しデータ管理・活用を行った。

平成28年度の相談支援述べ回数は2037回であり、年間相談支援実人数は延べ873人（新規：302人）であった。昨年度に比較し相談支援回数が約130件増加、相談実人数は約50人（新規130人）増加という結果であった。相談支援機関として地域住人に浸透してきた結果の増加ではないかと考えている。

イ： 独居の認知症のケースや虐待疑い等の支援困難なケースでは、西部地域高齢者支援センターや健康増進課、民生委員等と協力、連携し介護認定申請の代行や結果が出るまでの生活支援、見守り、病院受診等の支援を行った。また、認知症初期集中支援チームや精神科嘱託医訪問等も活用し、単独で抱え込まず、対象高齢者の問題解決に結びつくよう複数で協議し対応することを心掛けた。

(3) 研修等

高齢者支援センター担当者連絡会や西ブロック会等の定期会、地域ケア会議、外部の研修に積極的に参加し、情報収集や知識・技術の向上に努めた。

- ・ 地域ケア会議：4/22、6/24、8/26、12/16、2/22
- ・ 外部研修：4/15－住宅改修・住宅改造研修会
 - 8/17－高齢者虐待予防研修会
 - 9/12－認知症研修会
 - 9/23－西部地域医療カンファレンス
 - 12/13－マイナンバー制度と個人情報について
 - 12/14－認知症サポーターステップアップフォーラム
 - 1/19－H28年度センター職員全体会
 - 2/2－認知症サポーターステップアップ研修
 - 3/3－西部地域医療カンファレンス

3/11－住み慣れた地域で最後まで暮らすための支え合い地域づくり
 3/13－このゆびと一まれ講演会

6 くつろぎの家 訪問入浴

平成 28 年度における新規利用者は 32 名で、今年度から再度、障害者委託契約を行い 2 名の新規契約があった。死去・入院により 16 名の利用者が訪問入浴を中止されている。

新規依頼、問い合わせ等があったが空き枠がない為、22 件お断りする形となった。利用者の方の中には訪問入浴とデイサービスを併用されるようになった方や、訪問入浴を終了しデイサービスを利用開始されるなど、サービス提供後に ADL の向上により通所のサービスを開始された方も数名おられた。

今年度を通して新規利用の依頼に末期がんなどの終末期の方が多く、利用開始後、短期間でご利用が終了されるケースが多数あった。

今後も終末期のご利用者や短期間のご利用のニーズ自体は見込まれるため、短期の利用を希望されるご利用者については、より柔軟な方法で受け入れが出来る体制を作り、それを事業所へアピールしていくことで新規ご利用者の増加と、居宅支援事業所の新規開拓を目指したい。

<利用者数>

	延べ人数	昨年同月対比	実人数	1 日平均	稼動日数
4 月	64	-9	12	3.2	20
5 月	77	12	15	4.1	19
6 月	101	32	18	4.6	22
7 月	96	22	18	4.8	20
8 月	104	37	17	4.7	22
9 月	99	42	17	5.0	20
10 月	87	14	17	4.4	20
11 月	80	21	18	4.0	20
12 月	90	28	19	4.5	20
1 月	79	32	18	4.2	19
2 月	87	45	17	4.4	20
3 月	93	46	20	4.2	22
合計	1057	322	206	4.3	244

7 高齢者住宅等安心確保事業（若草町）

若草南町の市営住宅内のシルバーハウジングの入居されている方を中心に、日常的な相談や介護の相談、安否の確認等を関係機関と連携をとりながら活動を行ってきた。

<活動内容>

生活指導・相談	安否の確認	一時的な家事	関係機関との連絡	日常生活上必要な援助	その他
24 件	1,490 件	4 件	10 件	20 件	151 件

緊急通報・・・誤作動（12 件）

緊急対応（3 件）

- 7 月 19 日（20：50）— 自宅で転倒あり（左手、左脇腹痛あり）国立病院に連絡後、同行受診をする。
- 8 月 4 日（14：00）— 市住の方から 8 階の方の様子がおかしいとの相談あり訪問意識はあるが様子がおかしい為、救急車要請その後あさくら出張所に引き継ぐ。
- 1 月 19 日（8：00）— 自宅で転倒あり、起き上がりが出来ないとの事で訪問、腰が痛い歩けるとの事で様子観察となる。

8 総務部門

事業計画に基づき、経営改善と経費削減に努めることができた。しかし、経営改善には、課題も多く、安定的な経営へと結びついた事業があるものの、大半の事業がより一層の見直しが必要と考えられる。また、経費削減については、一部ではあるが、インターネットを活用し、購入先の検討を行うことができた。今後も、削減に向けた取り組みをインターネットを活用し改善していきたい。

災害・防災関係については、夜間想定と昼間想定で実施しているが、昼間想定時に「緊急地震速報」を活用した訓練を併せた訓練を実施し、訓練時の課題はあるものの、高知市南消防署西出張所より高評価を受けた。自然災害等に対する危機意識の向上と対応について、改めて検討することができ、継続し実施していきたい。

地域活動として、鶴来巣町内会をはじめ、複数の町内・地域行事への参加を行った。また、納涼祭や居酒屋、餅つき等の施設行事は盛況に終えることができ、隣接する高知市若葉保育園、朝倉第二小学校との交流も行うことができた。

9 実習受け入れ状況

団体名	実習内容	期 間	人 数
平成福祉専門学校	施設見学	H28・5/31	39

	介護実習	H28・7/1～7/10	6
高知介護福祉アカデミー	介護職員実務者研修	H28・9/8～9/13	3
		H28・12/5～12/6	4
高知学園短期大学	施設実習	H27・7/4～7/22	1

10 研修参加状況

月	日	研修名	主催者	人数
4	1 5	住宅改修、住宅改造研修会	ミニパック株式会社	1人
	1 7	行動観察方式活用研修	訪問看護ステーションそら	2人
6	2 3	第65回四国老人福祉施設関係者研究大会	高知県老人福祉施設協議会	4人
	1 6 2 2	認知症介護基礎研修	高知県社会福祉協議会 高知県福祉研修センター	3人
7	3	第47回高知県リハビリテーション研究大会	高知県リハビリテーション研究会事務局	4人
	1 4	第9回緩和ケア事例検討会	かもだの診療所	1人
	2 9	第1回高知県難病医療に関する研修	高知大学医学部付属病院	2人
8	2 9	難病医療ネットワーク研修会	高知県健康政策部健康対策課	4人
9	2 3	主任介護支援専門員研修	高知県社会福祉協議会	1人
	1 2	認知症研修会	ピアハウス高知	7人
		福祉サービス苦情解決セミナー	高知県社会福祉協議会	1人
	1 4	高知県福祉介護新任職員フォローアップ研修	高知県地域福祉部地域福祉政策課	1人
	2 3	第17回西部地域医療カンファレンス「地域でつなげる認知症」	高知市医師会事務局	2人
2 5	高知県通所サービス事業所連絡協議会	高知県通所サービス事業所連絡協議会	1人	
10	1 2 1 3	高知県老協事務職員研修会	高知県老人福祉施設協議会	2人
	1 3	難病学習会「パーキンソン病関連疾患の理解について」	高知市保健所 健康増進課	1人
11	1	高知県老協中間管理職合同研修会	高知県老人福祉施設協議会	1人
	5 6	認知症対応型サービス事業管理者研修	高知県地域福祉部高齢者福祉課	1人

1 2	8 9	四国ブロックカントリーミーティング in 徳島	全国老人福祉施設協議会・四国 老人福祉協議会・徳島県老人福 祉協議会	3人
	1 3	プライバシーや個人情報保護研修会	ミニパック株式会社	2人
	1 4	福祉職場の労務管理基礎研修会	高知県社会福祉協議会	1人
1	1 9	センター職員全大会	高知市高齢者支援課	1人
2	2	認知症サポーターステップアップ研修	高知市健康増進課	2人
	3	社会福祉施設総合保険制度説明会	あいおいニッセイ同和損害保 険（株）・浜口保健事務所	1人
	1 2	高知県老協協デイサービスセンター研修 会	高知県老人福祉施設協議会 デイサービスセンター部会	2人
	1 8	夕職種で考える地域連携緩和ケア研修	高知県・高知県在宅緩和ケア推 進連絡協議会	4人
	2 4	総会・高知県カントリーミーティング	高知県老人福祉施設協議会	1人
3	3	第18回西部地域医療カンファレンス 「在宅移行困難事例」	高知市医師会事務局	7人
	1 1	住み慣れた地域で最後まで暮らすための 支えあい地域づくり	高知市居宅介護支援事業所協 議会・高知県訪問看護ステーシ ョン連絡協議会	3人

Ⅲ 児童福祉事業

[1] うららか保育園 関連事業

1. うららか保育園

(1) ——— 保育の原点を児童憲章におく ———

- ・ 児童は人として尊ばれる
- ・ 児童は社会の一員として重んぜられる
- ・ 児童はよい環境の中で育てられる

基本方針

- ・ 子どもの人権を尊重する保育園

職員一人ひとりが子どもの命を守り育み、一人の人間として認め、毎日の保育を実践する。

- ・ 子どもの最善の利益を考える保育園

子どもの未来を見通し、広い視野で発達の過程を見守り、思いや感動を共有して保育する。

・子どもと親と保育者が共に育ちあう保育園
育児は「育自」子育ての良きパートナーとして伸びよう。

保育目標

- 自然に親しみ豊かな心をそだてる
- おもいやりのあるやさしい心を育てる
- 健康で丈夫な身体を育てる

運営目標（保育への心がまえ）

- ①家庭や地域と連携し、子どもが健康で情緒の安定した生活が出来る環境を用意する。
- ②遊びや体験を通じ、将来社会人として自立する土台がしっかり出来るよう、年齢に応じた、目標をもち、豊かな人間性を持った子どもを育てる。
- ③一人ひとりの子どもを正しく理解し、心身の発達の良い援助者になれるよう資質の向上に努める。
- ④保護者や地域の人々の理解や協力を得ながら園作りが進められるよう、コミュニケーションを大切にする。

（2）取り組み

基本方針、保育目標、保育への心がまえを大事にし、それぞれの部署で役割分担を行い、保育を積み重ねてきた。又高等学校の職場体験学習、県医師会看護専門学校の小児看護実習生の受け入れや施設病院内のデイサービス訪問、春野町や地域のイベントや行事への積極的な参加も行い喜ばれた。保護者会も園への行事等の協力だけでなく保護者会主催でバザーを行う等、活発な活動を行い保育園も協力して活動を盛り上げることができた。

- ①適切な役割分担と共に研修や実務による資質向上の充実に努めた。
- ②全職員での会議が取りにくいいため、朝の会・午睡時を利用しての報連相会・各部会等を行い、周知や共通理解に努めている。
- ③研修の中で園内公開保育を実施して午後意見交換、討議を行い保育の資質向上に努めた。
- ④月1回給食部会を行い献立や喫食について報告や検討を行い、給食内容の向上につなげる事が出来た。
- ⑤身体測定、誕生会、避難訓練、お点前（年長5歳児）、英語で遊ぼう（幼児組）わくわくタイム（学研教室）年長組は4月から年間30回
年中組は6月から年間20回を実施し遊びながら学び様々な経験をする事を大切にしている。

（3）園児入園状況と園児数

定員130名

初日 在籍入 所承諾 児童数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計 (4~9月)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計 (10~3月)	合計
	乳児	5	5	5	6	9	10	40	10	15	15	15	15	15	85	125
	1.2歳児	48	48	48	48	48	48	288	48	48	48	48	48	48	288	576
	3歳児	30	30	30	30	30	30	180	30	30	30	30	30	30	180	360
	4.5歳児	58	58	58	58	58	58	348	58	58	58	58	58	58	348	696
	合計	141	141	141	142	145	146	856	146	151	151	151	151	151	901	1757

(4) 保育日数

土曜日(7:30~19:00)を希望登園としているので実質休日は日曜・祝日
 年末年始(12/30~1/3)である。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	25	23	26	25	25	23	26	24	24	23	23	26	293

2. 特別保育事業

(1) 延長保育事業 (利用人数18時30分から19時)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用 人数	34	38	40	40	40	39	38	38	39	38	38	41	463

利用人数は月単位での人数

(2) 一時保育(クローバー)

家庭で育児をしている保護者のリフレッシュタイム、また仕事の都合などで保育を希望する子どもたちをお預かりしています。昨年度から引き続き継続利用をして頂き年間を通して利用数が多かった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用人数	93名	105名	170名	131名	148名	134名	153名	152名	146名	127名	140名	160名
平均利用数	5名	7名	8名	8名	8名	8名	8名	9名	10名	9名	9名	9名

(3) 子育て支援センター「うららかなかよし広場」

①地域子育て支援センター事業

◎ ひろば型として

- ・子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
- ・子育て等に関する相談・援助の実施
- ・地域の子育て関連情報の提供
- ・子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

②取り組み

- ・園庭、ホール、保育室を親子の遊び場・ともだち作りの場として提供し、園庭開放や体験入園を積極的に行った。
- ・看護師による毎月の身体測定。感染症等予防についての勉強会。
- ・講師を招き、茶道、編み物、スクラップブック制作などを体験する活動を行う。
- ・情報提供や園行事に参加し、保育園の在園児との交流を図った。
- ・助産婦・保健師・栄養士の外部講師を招いての相談会。

③活動内容

- ・毎月「なかよし通信」を発行
- ・育児相談の実施
- ・子育てセミナー実施（月1回）

育児講座等の実施

開催日	講座名	開催日	講座名
4月6月10月1月 3月	お点前	7月・1月	感染症について(看護師)
6月29日	「は・は・歯のはなし」	8月3日	救急救命士「救急法」
5月9月11月2月	スクラップブック	9月10月11月12月	親子でヨガ
5月・10月・3月	助産師「育児相談」	6月7月9月	英語で遊ぼう
6月・1月	栄養士「離乳食教室」	8月9日	Tシャツヤーンで作ろう
7月・11月	保健師「育児相談」	8月17日	染め物「コースター」
		12月2日	クリスマスリースを作る

- ・「園庭開放」を週5日 1日5時間実施
- ・毎月の行事・・・給食試食会・製作・エアランド・簡単おやつ作り
- ・保育園行事への参加・・・誕生会・避難訓練・秋の運動会・夕涼み会
クリスマス会・節分集会・ひなまつり集会

④利用状況

☆なかよし広場（月曜～金曜）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開放日数	20	19	22	20	22	20	20	20	19	19	20	22	243
参加 延べ人数	54	71	135	114	135	87	114	93	104	53	57	104	1121

（４）病児、病後児保育事業（ラベンダー）

本年度は、利用の少ない夏場、夏風邪の診断で、昨年度より利用が多くみられた。10月後半から11月前半にノロウイルスが発生。他園では11月頃からインフルエンザが流行し、ラベンダーを利用される児が見られた。園内ではインフルエンザの流行は無く、ほとんどが他の保育園児童が利用された状況であった。感染症の中でも登園停止期間が長い疾患では、病児室の利用期間が長く、感染上の問題でその疾患時のみの利用となる為、キャンセル待ちが多かった。本予約の児がキャンセルとなった場合に、すぐキャンセル待ちの児に連絡をするも、保護者が休みを取った、他の病児保育で予約が取れた等の理由でキャンセルとなり、病児室が空いてしまう事があったが、本年度から病児保育を多くの保護者に知って貰うため、ポスターを作成するなどの広報活動も行っており、利用児は昨年度より徐々にではあるが増えてきている。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	16	17	12	23	16	20	17	13	18	21	31	21	225

3. 平成28年度体験学習・保育実習等受け入れ状況

学校名	月 日	人数
県医師会看護小児看護実習生	5月31日～7月1日	30名
高知学園短期大学1年	9月5日～9月17日	1名

4. 平成28年度 主な行事報告

月 日	行事名	月 日	行事名
4月 1日(金)	始園式・入園式	11月 11日(金)	秋の遠足
4月 9日(土)	春の親子遠足	11月 4日(金)	春野町文化祭開幕行事に参加
5月 14日(土)	こいのぼり参観日	11月 6日(日)	春野町文化祭ステージ参加
	保護者会総会	11月 13日(日)	南ヶ丘文化祭参加(年中)

5月31日(火)	看護学生実習始まる(7月1日)	11月20日(日)	保護者会バザー
5月18・25日	内科検診	11月25日(金)	お店屋さんごっこ
6月11日(土)	あじさい参観日	12月5日(月)	懇談会週間
6月15日(水)	歯科健診(広田歯科)	12月9日(金)	お餅つき
6月27日(月)	芋の苗植え	12月16日(金)	LEDの工事をする
6月21日(月)	プール開き 神事	12月22日(木)	クリスマス会
7月9日(土)	夕涼み会	12月26日(金)	春陽荘お餅つき(年中)
7月25日(土)	南ヶ丘夏祭り参加(幼児組)	1月17日(火)	防犯教室(幼児組)
7月26日(火)	総合避難訓練	1月19日(木)	マラソン集会
7月29日(金)	年長野外活動(仁淀川)	1月22日(金)	一日入学(年長)
7月28日(木)	東小学校教員保幼小連携訪問	2月3日(金)	節分集会
9月10日(土)	なかよし参観日	2月25日(土)	第15回発表会(ピアズステージ)
10月1日(土)	春陽荘秋祭りに参加	3月7日(火)	劇団バク来園観劇
10月10日(月)	第15回運動会	3月10日(金)	お別れ遠足
10月12・19日	内科健診		固定遊具修理
10月22日(土)	ハビリ地域フェスティバル参加 年長組雨天決行	3月25日(土)	第15回卒園式
		3月30日(木)	清和学園演劇ボランティア来園 「桃太郎」の劇を見る

5. 職員の研修状況

平成28年度の研修状況(報告書作成有)

研修名	主催者	研修内容	参加職種	参加人員
乳児(1歳未満児)保育研修	高知市	乳児保育に必要な知識及び技術に関する	看護師・保育士	6
保幼小連携教育講座	高知県	課題解決に向けて協議し連携を図る	保育士	2
保育士・幼稚園教員基礎研修Ⅰ期	高知県	保育士・幼稚園教員に求められるもの	保育士	1
平成28年度人権研修会	高知市	人権尊重に基づく行動がとれる職員を目指す	保育士	1
アレルギー対応研修	高知市	アレルギー児の緊急時の対応等について	保育士・看護師	5
春野地区人権啓発推進総会	春野町	総会・春野西小学校公開授業	保育士	1
基礎研修Ⅲ期	高知県	専門性を高め自己の保育課題を持つ	保育士	1
主任保育士・幼稚園教頭等の研修	高知県	企画力指導力等に関しての経営的資質の育成を図る	保育士	1
幼児期の運動遊び講習会	高知県	幼児期運動指針に沿った運動遊び	保育士	2
子育て支援センタースタッフ研修	高知県	地域におけるセンターの取り組みについて	保育士	2
新任保育士の指導担当者研修	高知県	専門性やリーダー性を高め資質指導力の充実	保育士	1
救急法救急養成講座	高知県	緊急時における看護師の対応等	看護師	1
BCP策定支援講座	高知県	災害後の事業継続計画策定について	保育士	2
プール衛生管理講習会	高知市	プールの衛生管理について・普通救命Ⅲ講習	保育士・看護師	3

平成 28 年度防災教育研修会	高知県	南海トラフ地震に備え危機管理力防災力向上	保育士	2
高知県社会福祉大会	高知県	地域で子どもを守るために	園長・主任保育士	2
メンタルヘルスケア実施者講習	高知県	職場におけるのケアについての対応	保育士	2
地震対策優良取り組み事業所説明	高知県	BCP 策定後の計画書を確認する会	保育士	2
保育所給食関係職員研修会	高知市	保育所における給食提供について	保育士	2
防火・防災管理講習	高知県	防火・防災管理者資格講習	保育士	1
乳児保育研修	高知県	こどもの感染症・集団生活で気を付けること	保育士・看護師	3
地域子育て支援センター職員交流会	高知市	母子保健事業の紹介等	保育士	3
食物アレルギーセミナー	高知市	笑顔輝く食の未来	調理員	1
子ども子育て支援新制度説明会	高知県	国の子ども子育て支援新制度説明会	保育士	1

IV. 放課後児童クラブ

- ①活動場所
- * 東小学校放課後児童クラブ 東小学校校内
指導員 4 名(支援指導員を含む)
 - * 西小学校放課後児童クラブ 西小学校校内
指導員 5 名(支援指導員を含む)
 - * 南ヶ丘放課後児童クラブ児童クラブ第 1・第 2
第 1 指導員 3 名(補助指導員含む)
第 2 指導員 2 名
- ②活動日
- 月～金 下校時刻より 18時まで 第三土曜 8時30分より18時
春・夏・冬休み・振替休校日 8時30分より18時
- ③運営目標
1. 児童の出欠の確認をし、その日の健康状態を把握する
 2. 室内遊びや外遊びの約束事の指導を徹底する
 3. おやつを提供・衛生面の指導
 4. 宿題、学習援助、
- ④活動報告
- 指導員がルールについて共通認識を持ち、同じ姿勢で指導を継続することで、落ち着いて過ごす事ができている。各児童クラブが互いに連絡相談を行い助け合う事が出来ている。毎月の定例会では情報の交換や看護師による感染症予防研修などを行っている。

春野東小学校放課後児童クラブ利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	20	20	23	20	22	20	21	21	20	20	21	21	249

在籍者数	54	54	55	55	56	49	48	48	49	48	47	46	609
出席延人数	878	891	1090	922	782	855	847	837	798	751	752	716	10,119

春野西小学校放課後児童クラブ利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	20	20	23	20	22	20	21	21	20	20	21	21	249
利用者数	58	56	56	57	58	57	54	52	52	52	55	52	659
出席延人数	940	967	1078	933	740	959	941	919	801	772	895	860	1,0805

春野南ヶ丘第一放課後児童クラブ利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	20	20	23	20	22	20	21	21	20	20	21	21	249
利用者数	54	55	55	54	55	47	45	45	44	44	42	42	582
出席延人数	837	884	907	844	819	723	637	693	588	601	544	672	8749

春野南ヶ丘第二放課後児童クラブ利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	20	20	23	20	22	20	21	21	20	20	21	21	249
利用者数	28	27	27	25	25	24	24	23	23	22	22	22	292
出席延人数	462	432	494	405	379	398	405	396	372	331	322	343	4,739

IV 公益事業

[1] 平成福祉専門学校

1.平成福祉専門学校

1.本校の取り組み

介護福祉事業に従事する介護福祉士を養成する施設として、広く専門的な知識と技術を習得させ、更に創造力を養い、社会福祉の推進に貢献する有能な人材を育成するために下記のことに取り組んだ。

(1) 教務課

実践目標

- ・ 2年間で単位を取得し、「資格取得時の到達目標」の到達をめざす
- ・ 国家試験受験対策の実施

取り組み

① 領域「人間と社会」

専門職として、現場で求められるリテラシー力、余暇活動の実践力を習得する科目を主軸とし、本領域の科目編成によりスリム化をはかった。

② 領域「介護」

介護福祉士教育の核となる領域であるため、学生が興味関心を持って学ぶことができるよう、教科間の連携をはかる中で、それぞれの専門分野で会得することを授業内容に取り入れた。個人、グループワーク等を通して学生が主体的に学習できるよう努めた。

③ 領域「こころとからだのしくみ」

介護福祉士教育課程において、学生が苦手意識を持つ領域である。そこで、看護的視点でまずは、人体の構造と機能を平易に解説し、症状や疾患の理解が深まるよう授業の進度を調整した。

(2) 学生課

実践目標

- ① 学生の自主性を育てる
- ② 自分の行動に責任がもてる力を育てる
- ③ 周りに気づくことのできる力を育てる

取り組み

① 学生生活指導

学生自治会を主体に、学生課がバックアップして生活指導を実施した。

また、これまでの、クラス固定教室を廃止し、授業毎に、教室移動することで、教室内の荷物の置きっぱなしや私物の紛失防止に取り組んだ。

しかし、交通マナー等、指導不足な面もあり、習慣化できるような継続的、効

果的な指導体制の構築が必要である。今後は、他者から認められる人間性を醸成していきたい。

② 自治会活動

学生自治会が主体的に、学内行事を企画・運営することができた。また、外部イベントとして、国際ソロプチミストよさこい高知の活動や介護の日のイベント、交通安全運動や点字図書寄贈など、地域に密着した活動にも積極的に参加できた。

先輩の活動を後輩が引き継ぎ活動する姿勢が定着しており、今後も維持していきたい。

③ ボランティア活動

年間を通じて、福祉施設のボランティア活動への積極的参加を呼びかけ、見聞を広げ自己研鑽に励むよう指導した。事業所や団体のボランティア学生に対する評価は、おおむね好評であった。

学生の自主性を尊重するが故に、参加する学生にも偏りがある。また、地理的な理由から、参加する施設や内容に偏りがあり、依頼のある施設にまんべんなく参加することができていず、課題が残った。

④ 校内・地域の環境美化活動

校内の清掃において、これまではクラス毎のグループ編成により清掃活動を実施していたが、他人任せな姿勢が浮き彫りとなり、行き届いた清掃ができていなかった。

今年度より、学年を隔てた縦割りグループを編成し清掃活動に取り組むことで、学生間の協調と連携をはかることができ、効率的に清掃活動を実施することができた。

地域の清掃活動は、計画的に実施することができず不十分であった。次年度は、当初より計画的に実施する必要がある。

(3) 業務推進課

実践目標

- ① 学生募集の強化
- ② 説明力や奨学金情報の取得など職員のレベル向上
- ③ きめ細かいフォローと迅速な対応

取り組み

- ① 高校には、合計 290 回訪問して、体験入学への参加周知や奨学金等の周知、説明会、体験入学等で出会った高校生の報告や進学に向けての不安や疑問を解消した。福祉教育授業として、県内の高校や小学校 12 校で 297 人に対し

実施した。

- ② 高知県専修学校各種学校連合会、説明会業者 8 社で合計 49 回の説明会に参加して、延べ 256 人に介護福祉分野の魅力、学校の特徴、雰囲気等を説明し体験入学への参加に結びつけた。体験入学の参加者は延べ 96 人であった。
- ③ 体験入学、説明会に参加してくれた学生に向けて、手紙を送るなどのきめ細かなフォローの徹底が出来ていない為、次年度取り組む。

(4) 総務課

実践目標

- ① 的確で迅速な予算管理
- ② 経費削減の徹底
- ③ 職員間の連携をしっかりと取り、窓口では笑顔で丁寧な対応を行う

取り組み

- ・各自が仕事の優先順位を考え、無駄を省いて取り組むようにした。
- ① 初任者研修や実務者研修などの新事業が加わり、予算管理や伝票訂正などが当初は多く、スムーズな処理は出来なかった。
- ② 無駄を省く意識を持ち経費削減には努めたが、昨年との統計的比較までは出来ていないので、次年への課題とする。
- ③ 新事業の開始で電話や窓口対応が増え、職員全員が新事業の内容について把握をしておく必要が増えたが、連携を取り実施できた。

2. 介護実務者研修

平成 28 年度より通信課程において研修を実施した。当初 50 人の定員であったが、希望者が多かった為 100 人定員に増やし募集をした結果 76 名の受講者があり内 73 名が受講を修了した。

3. 高校生就職支援事業（介護初任者研修）

平成 28 年度高知県より委託を受け、高校生就職支援事業を開始。訪問型研修として、須崎・須崎工業・城山の 3 校と集合型研修として本校にて 1 校と計 4 校にて実施する。計 60 名受講し 58 名が修了した。

受講生の中で福祉分野への就職も数名おり、5 名は本校への進学を決定する。また、1・2 年生の受講者からも数名進学希望者が出ている傾向にある。

4. 就職について

平成 28 年度卒業生の就職希望者については、以下のとおりである。

介護老人福祉施設	13 人
介護老人保健施設	1 人
医療機関	1 人
自立支援施設	7 人
有料老人ホーム	1 人
居宅サービス関連事業	4 人
未就労	10 人

37 人

V 法人各種委員会活動報告

1 人材確保対策委員会

平成28年度の取り組みとして職員採用だけの委員会活動でなく、やめない職場づくりにも取り組みました。委員会の委員だけでなく事業所の職員も入ってもらい委員会活動を行いました。高校の就職担当者との意見交換では、高卒者の介護現場増加があるため法人内での状況等を伝えることができました。その中で法人として高卒者採用後の研修制度の充実へとつなげることができました。また一般職員を介護就職フェアへの参加をしてもらい介護現場のやりがい等をアピールすることができました。一般の人へ介護職員が言葉で伝えることで介護現場の厳しさだけでなくやりがいも伝えることは良かったと感じました。

今後の課題として、やめない職場づくりの取り組みをさらに委員会を通じて行っていく。具体的には他の委員会との連携を行うことで働きやすい職場環境を作ることが来年度へとつなげていきたいです。

2 総務経営委員会

法人全体の経營業況、また、介護保険情勢の厳しい現状を踏まえ、各拠点間での経費削減と計算処理方法の統一を図ることに取り組むことができた。ただ、全体的な取り組みとしては一定の効果が見込まれるが、事務職員の資質向上と、より一層の経費削減に向けた検討を積極的に行い、一貫し統一した計算処理に努める必要がある。

経費削減については、現状の購入業者も含め、購入先の検討を行い、インターネット購入を視野に入れた検討を行うことができた。しかし、インターネット購入では、業者に対する信頼度等に不安があるため、業者選定時に一定のルールを設定し、試験的に購入を行っている。また、業者選定の基準として、大手インターネットショッピングモー

ルへの出店業者を最低条件とし、物品を精査した上での購入を実施している。

事務職員の処理能力均一化に向け、2か月に1度の各拠点計算書類調査を実施した。調査は、仕訳科目・摘要内容等の確認・修正等を行い、関係資料の確認等を併せて実施した。しかし、一部ではあるが、職員個々の処理方法が存在し、より一層の教育と周知徹底が必要と考えられるため、今後も継続し計算書類調査を実施し、学習会等の追加を行い、処理の均一化に向けた取り組みを行う。

平成30年度の第7期介護報酬改正を視野に入れ、報酬減の見込まれる次期改正と今後の介護保険情勢に対応すべく、経費削減と見直し、人材確保と離職の抑制に向けた人件費等についても検討を行い、法人経営の安定化に向けた取り組みに努める。

3 危機管理委員会

平成28年度は法人職員が「正しく知り、正しく恐れる」ことをテーマに研修や訓練を取り入れた実践型の取り組み、防犯対策を行った。実際に起こった平成28年4月の熊本地震では老協にボランティア派遣の申請を行い熊本県社協に訪問入浴車両貸出の調整や親和会に相談し義援金を募り法人全事業所職員が義援金を送金することができた。また相模原障がい者殺傷事件発生し各事業所で防犯体制の見直し、高齢者事業所2カ所が先だつてマニュアルを作成し法人初めての防犯訓練を行った。

BCP（事業継続計画）の見直しや全事業所作成を目標に各事業所で机上訓練を行い防災の啓発を行い取り組んだがBCP全事業所作成には至らず来期の課題となった。わかきさ養護学校の防災対策取り組み見学は成果があり「見える化」の取り組みを推進しハード面やマニュアル等のソフト面、地域との協力体制等学ぶ点が多く今後も防災訓練の見学等通じて繋がりを作りながら相互の協力関係を構築したい。

また防災研修として定着しつつあるうららか春陽荘災害ワーキングを実施し地域合同の福祉避難所開設訓練を行ったことや、やすらぎの家災害ワーキングではご家族参加の訓練を行うことができた。このような取り組みから社会福祉法人長い坂の会やすらぎの家、うららか春陽荘が南海トラフ対策優良事業所5つ星の認定を受けることができた。この認定に奢ることなく被害を最小限にし早期に事業復旧・継続できるよう「見える化・実践型」をテーマに防災防犯対策活動に努めていく。

4 教育・研修委員会

I、 H28年度実施研修内容

日時	議題	講師	対象者	場所
① 5月24日 18:30~20:00	接遇 「自分の気持ちを	Y グローリー	全職員	① うららか 春陽荘
② 5月31日 18:30~20:00	伝える コミュニケーション」	近藤 由枝氏		② 平成福祉 専門学校

7月15日 18:30~20:00	新人研修Ⅰ	教育研修委員	H28年度 採用者	平成福祉 専門学校
9月28日 18:30~20:00	人権	高知県人権啓発 センター 吉川 葉子氏	全職員	平成福祉 専門学校
11月18日 18:30~20:00	ハラスメント	高知県人権啓発 センター 河野 教子氏	全職員	平成福祉 専門学校
1月20日 18:30~20:00	リーダー事例発表	各事業所 リーダー発表	全職員	平成福祉 専門学校
2月17日 18:30~20:00	新人研修Ⅱ	教育研修委員	H28年度 採用者	平成福祉 専門学校

Ⅱ、年度初めに決めた目的目標についてと内容について

「学んだ研修が次に繋がり、福祉事業の現場で活かされる研修」「離職ゼロ」については、新人研修は年間2回の開催により再度同期のメンバーが集まり各班の職員が一人も欠けることなく離職していないことを確認でき喜び、今後も継続して行こうと団結した事からこの研修内容と回数は有効性が有った。接遇の研修は2年連続で同じ講師でありマンネリ化があった。そして、研修開催で意識付けにはなった。人権、ハラスメントは重複する内容であった為、H29年度内容の検討が必要。吉川先生はインパクトが強く印象に残る研修であったとの報告書が多かった。リーダー研修については他事業所での取り組みを理解し、考えさせられる内容もあり、自事業所でも活かせるとの意見も多数あった開催の有効性があった。

Ⅲ、毎月の会議開催について：年度初めに第火曜日に行う事を決め前の月に開催確認を行う事で実施する事が出来た。H29年度も継続して行く。

5 保健衛生委員会

保健衛生委員会の大きな目標である、各施設の業務の統一化、看護スタッフのスキルアップについては、本年度は昨年度に比べより多くの看護スタッフが他施設での交流研修に参加し、更には実際に業務を担当する事が出来た。

施設によっての特性もあることから、業務内容の統一化は難しいものであるが、どの施設でも看護師が同じように戦力として看護業務が行える事が出来るよう、今後も交流研修や業務補助に積極的に参加していく必要があると考える。

施設内研修についても同様であり、看護師が担当できる分野については、最新の知識を提供、指導できるよう自分達のスキル向上を図りながら取り組んでいくとともに、統一した内容となるよう施設間、委員会間で連携を取りながら取り組んでいきたいと考える。

本年度から取り組んできた、介護福祉士による医療的ケアの実施訓練場所については各

施設の施設長、課長を始め多くのスタッフの協力を頂きながら、朝倉病院事務側へ相談、説明まで話を持っていくことが出来た。理事長からも「今後必要な課題であり、取り組むべき。」と返事を頂いたが、委員会側と病院側との考えに違いが生じ、更に来年度から介護福祉士の国家試験が実施される事などによって、新たな制度改革があるのではないか。という意見もあり、この件に関しては一時中断し今後の流れを確認し必要であるならば、新たな実習場所も視野に入れながら検討していく方針となった。今後も周りの状況等を保健衛生委員会議事録にて報告していきたいと考える。

本年は看護師が、他の施設への補助や看護師不在施設への援助へ出向する機会があり、互いの施設での看護師の役割の把握、医療的知識、技術の見直しができ、連携がしっかりと取れた実りある一年度あった。

来年度は更に、看護職間の連携を強め、多職種、他委員会との連携を図りながら、看護師としての役割をしっかりと把握し、個々の看護知識の向上、スキルの向上に努める事が出来る委員会としていきたい。

6 給食委員会

28年度の給食委員会では法人間の給食についての取り組みや情報共有について行った。取り組みについては事業所間での感染対策、災害対策を行った。感染対策では食の安全についての再確認を各事業所で周知できるように検討会を重ね周知できた。また災害対策では日常の調理業務ができない中で食事提供をどのようにして行うかを検討し災害ワーキングで演習できたことは良かった。情報交換では日々の業務確認や献立等の意見交換で幅も持てたことはそれぞれの事業所で学びにもつながった。

7 在宅福祉推進委員会

28年度委員会目標としてまず法人「長い坂の会」として地域に積極的に出て行きアピールしていきながら、地域の方の思いや何が求められているのか把握することをおかけ、一通り各事業所近辺（朝倉・針木・若草など）での地域イベントへの参加を実施した。鶴来巣町内会納涼祭・針木町内会納涼祭に全員で分散して参加し、広報委員で作成した法人ポロシャツを着用して参加。反応として町内の方から積極的な声かけがあり、全く関わりがなかった方達との会話が盛り上がるなど、地域の中で「長い坂の会」の浸透性を実感した。関わりの中で求められているのは内容ではなく、人との繋がりが一番求められているのではないかと実感した。

地域住民の方のニーズは様々あるだろうが、一旦来年度は福祉事業所をメインでアピールすることにこだわらず、イベント対象者等も限定せずに年間予定を立てイベント等の参加者や意見を聞きながら、何が求められているのかを探っていくこととする。

在宅推進委員会での予定は下記の通りだが、本年度も地域イベントには積極的に参加して行き出来る協力は柔軟に対応をしていく。

また、拠点三施設の在宅サービスの近況も会ごとに共有しあい、ショートステイの受け入れの協力や相談、通所サービスの近況や困難事例の報告などが実施でき、同一法人で協力して支援することが出来た。

29 年度行事予定

10 月 地域交流イベント

*場所・内容は現在検討中だが、わかくさの駐車場が一番集客率がいいと思われる平成福祉専門学校の学園祭などでブース出店している春野高校・海洋高校にも協力を要請してはどうか？

12 月 クリスマスリース作り

8 高齢者生活改善委員会

これまで、委員間では職員の意識改革が必要であるとの共通認識は出来ていたが、現場で気になる事を持ち寄るだけの会議になっていた。委員の思いや考え方を、どの様に現場職員に伝えて行けば良いのか方向が定まらずにいたが、今回はテーマを一つに絞り、そこから一つずつ伝え方を見つけてみようとして試みる。テーマを「整容」とし、取り組み内容や方法は各事業所で話し合った事に取り組む。仲間を作りどんどん工夫して良い結果が出る事業所もあれば、なかなか浸透しない事業所もあり、なぜ良い結果が出たのか？なぜ浸透しないのか？と新たに検討、各事業所の取り組み方や、アドバイスを持ち帰り取り組みに繋げることを繰り返し行った。当初は3か月でテーマを変える予定であったが、新たな課題を検討しながら取り組みを継続し本年度が終わってしまった状況である。最終報告では、取り組みを通して、自分の考えに協力者が出来、皆で工夫しながら作り上げて行く事に楽しさを感じたという職員の声があり、この様な思いを持てる職員を一人、二人とコツコツ増やしていく事がこの委員会の役割でもあると私たち委員は感じている。活動としては未熟であるが、委員一人一人の思いを少しでも形にし、ご利用者の生活改善に繋がるよう、色々な視点から考察し向上に努めたい。

身体拘束・虐待防止啓発ポスターについて、本年度は更新出来ていなかった為、来年度は年3回の更新に努める。

29年度活動

4 月	委員会開催（現状の課題、今後の方向性について）
5 月	委員会開催（本年度テーマ「整容」に決定）ポスター作製
6 月	委員会開催（活動計画検討・決定）
7 月	委員会開催（取り組み現況報告、随時検討）新ポスター配布
8 月	委員会開催（取り組み現況報告、随時検討）

9月	委員会開催（取り組み現況報告、随時検討）
10月	委員会開催（取り組み評価にて継続）
11月	委員会開催（取り組み現況報告、随時検討）
12月	委員会開催（取り組み現況報告、随時検討）
1月	委員会中止（インフルエンザ感染防止にて）
2月	委員会中止（インフルエンザ感染防止にて）
3月	委員会開催（最終報告・総括）

9 広報委員会

法人の存在を地域に広げる事や、関心を持ってもらえるように活動を行ってきた。

(1) 広報誌について

3か月に1回、年間4回の計画的に発行ができています。

各事業所の活動を掲載するのみにとどまらず、明るい法人という印象を持ってもらうために、「みんなの掲示板」と題し職員間の交流や職員の趣味、法人の取り組みを紹介するコーナーを新たに設け発行した。また近隣地域へのボランティア活動について、ほぼ毎号報告ができたことから、反響は耳にしてないものの法人内に留まらず、地域にも活動範囲を広げていることを周知できていると思われる。以上のことから、法人のイメージアップにつながる広報誌が発行できたと思われる。

(2) ボランティア活動について

法人施設の近隣で行われる活動に、広報委員のみならず職員も一緒に参加をした。また針木の夏祭りでは、エイト産業や平成福祉専門学校の学生にも協力してもらっている。活動時には、法人のイベントジャンパーやポロシャツを着用した。

参加する中で、以前も参加していた事を覚えてくれていて温かい声を掛けていただいたり、法人の存在を知っていると聞く事も多々あり、活動を通して地域と法人が身近に感じてもらえる活動ができたと感じた。しかし、まだ知らない方も大勢いると思われるので、今後も引き続き地域と関わりを大切にしていける必要があると感じている。

平成28年6月5日 朝倉宮の奥地区での清掃活動

7月24日 はるの宝司部地区での清掃活動

8月20日 朝倉針木西公園での夏祭り

10月30日 朝倉針木西公園での秋祭り（梨が不作だったため中止となる）

9月3日 朝倉秋まつり（計画するが台風で中止となる）

平成29年1月22日 はるの西分地域での清掃活動

(3) ホームページの管理について

各施設の広報委員が確認するようにしているが、意識の低さや業務等に追われ定期的に更新ができていない現状があった。また使用している写真や事業の変更があっているにも関わらず、修正されていない・遅れて行うことが見られた。定期的な更新と、変更

時の修正をすばやく行うことが課題である。毎月、委員会の中で確認をしていく必要がある。

(4) 法人のパンフレットについて

委員会の中で話あい、表紙のみだが素案を提出している。法人のパンフレットであり容易に作成は出来ないと局長から話があり、返事を待っている状態。在庫がない施設もあり、早急に作成する必要がある。